

第19回全道造形教育研究大会

昭和44年7月31日・8月1日

主催 北海道造形教育連盟

後援・北海道教育委員会・札幌市教育委員会・札幌市教育研究協議会・協賛・札幌市立中央小学校



7月31日(木) 受付

開会式
オリエンテーション

昼食

公開習

分料会

懇親会

九三〇

一〇〇〇

二〇〇〇

二二〇〇

二四〇〇

二六〇〇

二六三〇

二八三〇

8月1日(金) 受付

分料会

昼食

集約

評価

閉会式

九三〇

二〇〇〇

二二〇〇

二二三〇

二五五〇

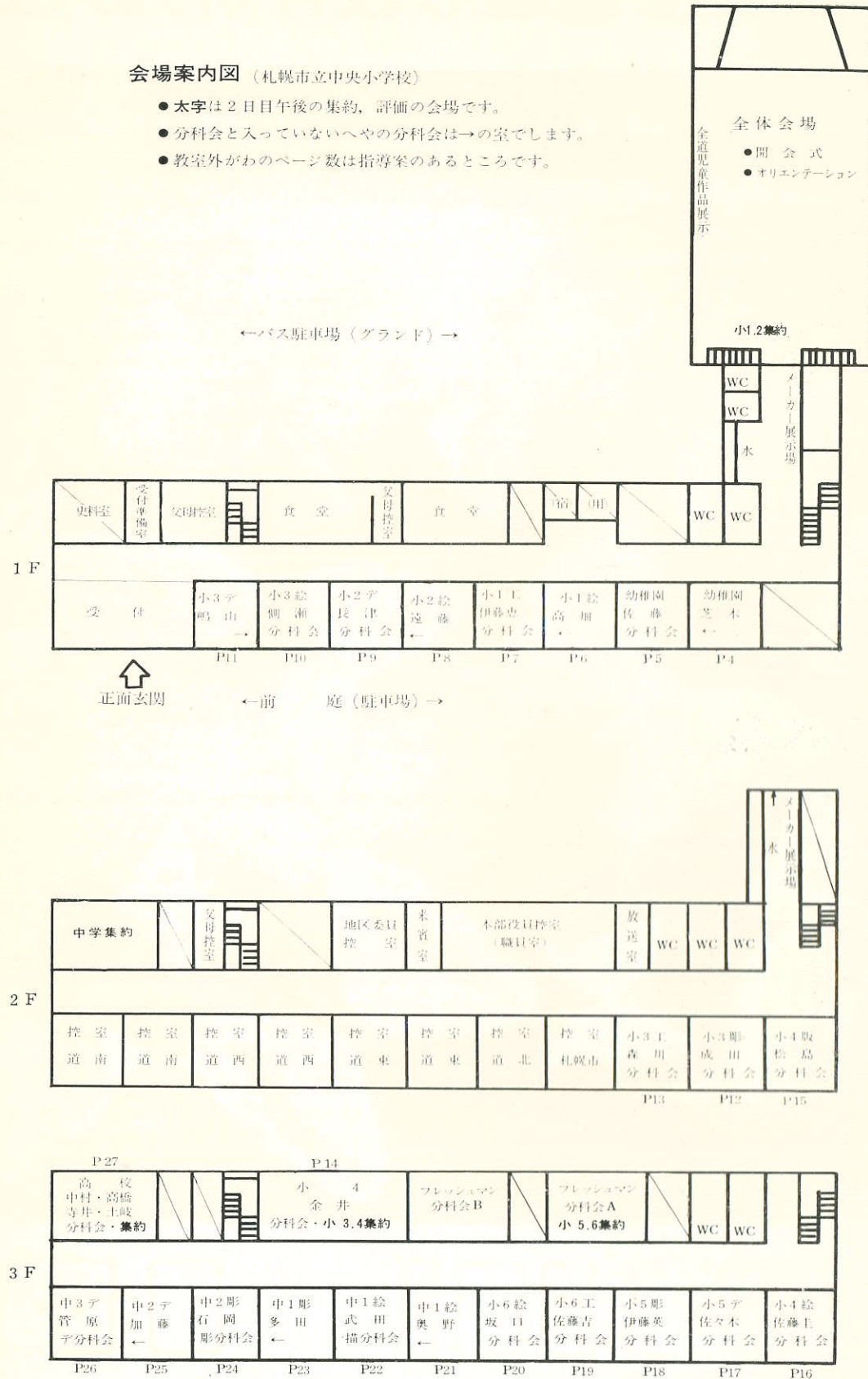
一六〇〇

第19回全道札幌大会開催にあたって

北海道造形教育連盟委員長 和田 芳 郎

会場案内図 (札幌市立中央小学校)

- 太字は2日目午後の集約、評価の会場です。
- 分科会と入っていないへやの分科会は→の室でします。
- 教室外がわのページ数は指導案のあるところです。



本年3月、前委員長赤石先生が40年間の現職を無事終えられてご退任になられました。学校経営と造形教育の振興充実のために献身なさいましたご功績に対して、心から敬意と感謝を表すものであります。

連盟は規約にしたがい3月29日、地区代表委員のかたがたによりまして、昭和44年度の役員改選を行ないました。結果、不肖私が委員長としてご推せんをいただきました。副委員長には滝村虎雄氏(長万部小)一戸信雄氏(空知赤間小)小山田武氏(根室標津中)今野正治氏(旭川明星中)事務局長伊東将夫氏(札幌平岸小)とそれぞれ適切な方が就任をみました。

連盟は昭和26年に北海道図画工作連盟として第1回大会を札幌市に開催し、本道の図画工作教育の振興を目的として発足した有志団体であったわけでありました。しかしこの以前にも札幌美育連盟とか北海道美術教育会とかの名称で草分けの時代がございましたので、これらを加えますと成人式を越えたことになるわけでございます。この流れの中で図画工作連盟は造形教育連盟と改称し、全国造形教育連盟にも加入、昭和36年には第9回全国造形教育研究大会を札幌市で開催いたしました。現在は機関誌の発行部数も2000部を越えるまでに発展いたしました。また、この連盟の推進のため野村、新妻、赤石先生の歴代委員長が、連盟の発展のために勢力的に活躍されましたし、また私も本部の常任委員は勿論ですが、各地区委員のかたのサークル組織づくりと、各市町村、教育局のご理解あるご協力、ご助言も忘れられないところであります。更に協力団体のご支援と教育内容のご指導を賜りました本道教育大学各分校の美術教官各位のご助言も今日的発展をもたらしたことは申すまでもございませぬ。本大会開催の講師として美術指導者の殆ど全員を網羅し、とりいれる内容の吸収に全力をあげ、これを全道に普及し、日本の水準として受取るべく努力いたしました。昨年湯川尚文氏のご逝去を知り、また本部でも高橋良助氏(札幌西高校)長井孝二氏(札幌北小)を常任委員中で亡くし、病状にある先輩各位もおられることは、人の世の常とは申せ、感慨新たなるものがございます。

全国児童生徒作品コンクール等で北海道のこどもの作品が、学校賞、或は個人賞等で表彰をうけることが、近年は少くありません。このことは、ある意味におきましては質の向上を裏づけるものとして同慶に堪えないところでございます。しかし広大な本道の地域の特殊事情と対象児童が年々更新し、また指導者層もこれと同じような姿で更新しております。いつ、どこでも、誰でも、とりくめる、わかりやすい図画工作(造形教育)教育とする一般化の努力が、過去も現在も、また未来にも永遠に続くことであろうと思われます。

美術教育の思潮はご承知のように、新しい絵の会、創造美育の会、造形センター、幼美の会等それぞれの思潮により、それぞれの企画と内容的研究の掘下げに活動

されているところでございますが、本連盟はこれらを包含する立場で互いの思想を交流して、自由討議の中から真実をつかみ、教科性的本質をさぐり出そうとする努力を今後も一そうおし進めていこうと考えております。

本年は「造形能力はどのような指導によって育てられるか」を主題とし、指導ということに重点をおくことになりました。函館大会、苫小牧大会と「指導の構築」を主題として継続研究し、造形教育の系統表、能力表、或は実践研究の展開例等も発表してまいりましたが、これらは3カ年間のまとめとして200頁の研究紀要として発表いたしました。みのりある成果があがりますよう、みなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

終わりに本大会開催のために、道教委、市教委、札幌市幼、小・中、高校長会、園長各位のご理解あるご配慮によりまして、指導者、司会者、記録者、児童、生徒のご参加をいただけたけました。また会場をお貸し下さいました札幌市立中央小学校長、協賛下さいましたPTA等関係の皆様には深甚な敬意を捧げ、心からお礼を申し上げます。
 <札幌市立豊平小学校長>

造形能力は どのような指導によって 育てられるか

研究部長 高橋 栄 吉

第14回札幌大会(昭和39年)に「子どもの造形能力とは何か」という研究主題をかかげてから、ちょうど6年目になりました。なにか回わりまわった感じがするわけで「造形能力はいかなる指導によって育つか」という主題が本年になったのも、何かの縁と考えられるのです。この間のあゆみは深化と拡充の追求でありましたし、図工科という教科性的の確立のための努力でありました。

それは、造形教育の核としておさえるものは何か、その理論的構造はどうか、その内容系列はどうなればならないか、そしてその指導のポイントはどうあることが望ましいのか。それを育てる手だてはどう組み立てたらよいか、などの問題点を討議してきたのであります。

子どもが主体的に獲得する能力の定着は、個人差こそあれ、もっと普遍的で一般化された指導の典型があれば素晴らしいことです。それを実態に即応させていく糧としてつかみたいと念願してきたのであります。小さな歩みではありますが新指導要領が示すものより具体的に、効率的にそしてもっとも自然な子どもの実態にありように配慮してきました。根本的な考え方をおさえ、指導の具体化をはかった実践をもちよってお互い交流し、その中から汲みあげて、ねり上げようと努力してきたわけでありました。

本大会は、その提案の札幌が全道各地で実践されてきた過去3年間のみのりを全面的に集約し、ひとつの節にしたいのであります。

これを土台にして、発展すべき問題点をみつけ出し、より多くの実践資料から、共通理解になるものを柱にして、より深い創造性の開発に挑みたいと考えるのであります。

ことしの地方サークルならびに実践者の貴重な発表が、各分科会に20名以上も提案されることは、かつてなかったことであり、全道大会のひろばにおいて、これをじっくり聞かせて頂けるのが幸いです。しかもその実践のあゆみを資料によって確かめるように、〇〇コーナーとして多くの先生方に公開し、子どもの実態と教師の造形教育観とが、どこに接点をもって、子どもの中に生きてきたかを知ることが出来るのであります。

しかも札幌の常任委員は20数名、すべて授業公開と、自分の立場を明らかにし、その計画のすべても、赤裸々に余すことなく公開しさらに若い実践者を紹介し、これからの発展を期待したいと念願したのであります。

さて、研究紀要も第3集をむかえて、貴重な参考資料を集録してきたのでありますが、一般化を志向しつつも、未だ問題点がたくさん残されていることを痛感しています。

特に指導要領の小中篇、高校篇が改訂をみていくわけですが、本連盟としての立場を再確認し、本来的使命をもっと積極的におし進めたいと考えております。それが造形教育の近代化をめざして、造形教育の果すべきものは何かということをはっきりと明らかにする営みだと思っております。

今後、目的、構造、計画、指導が一体化されさらに細かく教材のとらえ方、展開のありかた、造形の発達段階、児童観、風土性なども加えて、その指導体系を連盟としてそれぞれ体系化しなければならないと考えているのであります。

先に発表された造形能力系統、内容体系なども改善されなければなりませんし、教育課程試案も、もっと吟味されなければなりません。会員各位の広い実践を母胎とする全道的協力をさらに期待し、より普遍的な、誰にでもできる造形教育のよりどころとなるものをつくりあげたいと念願しているのであります。
〈札幌・藻岩小〉

オリエンテーション

司会・高橋 栄吉〈藻岩小〉	・佐藤吉五郎〈幌南小〉
・金井 秀男〈中央小〉	
提言・荒木 愛子〈児童画研〉	・吉田 広仕〈美香保中〉
・辻 悦平〈澄川小〉	・中村 矢一〈月寒高〉
・森川 昭夫〈附属小〉	・小山田 武〈標津中〉
・種市誠次郎〈発寒小〉	・滝村 虎雄〈長万部小〉
・遠藤 久男〈美香保小〉	・今野 正治〈旭川明星中〉
・佐藤 圭〈東札幌小〉	・一戸 信雄〈赤平赤間小〉

公開学習一覧 13:00~14:00

学年・領域	題材	授業者〈校名〉
幼稚園・絵画	私と子どもの対話	芝木 捷子〈中の島幼〉
幼稚園・製作	王様になったら	佐藤 綾子〈手稲幼〉
小1・絵画	ふしぎな木	高畑 睦子〈真駒内曙小〉
小1・工作	かみのいえ	伊藤 恵〈羊ヶ丘小〉
小2・絵画	おうまにのって	遠藤 久男〈美香保〉
小2・デザイン	水ぞくかん	長津 喜代〈創成小〉
小3・絵画	ともだちをかこう	側瀬宇太郎〈平岸小〉
小3・デザイン	ぼくのわたしのつくったお話	嶋山 恵子〈幌西小〉
小3・彫塑	なにかしている動物	成田 一夫〈豊平小〉
小3・工作	坂をカチカチおりの動物	森川 昭夫〈附属小〉
小4・絵画	ちいさなおうち	金井 秀男〈中央小〉
小4・版画	学校のこと	松島 輝男〈幌西小〉
小4・絵画	高さをあらわそう	佐藤 圭〈東札幌小〉
小5・デザイン	夢の家旅写真	佐々木理温〈藻岩小〉
小5・彫塑	友だち	伊藤 英世〈附属小〉
小6・工作	小さいベットの家具	佐藤吉五郎〈幌南小〉
小6・絵画	楽器をもつ友だち	坂口 清一〈平岸小〉
中1・絵・外	花の表現	奥野 郁男〈向陵中〉
中1・絵・構	物語の表現(単色木版)	武田 郁代〈信濃中〉
中1・彫・写	顔のある壺(テラコッタ)	多田 紘一〈北栄中〉
中2・彫・構	新しい塊の表現(石膏じかづけ)	石岡 博昭〈啓明中〉
中2・デザイン・立	入れもののデザイン	加藤五十和〈札幌中〉
中3・デザイン・平	童話の表現(アニメーション)	菅原 稜三〈平岸中〉
高・選択	平面構成	中村 矢一〈月寒高〉
4校・1室	版画	高橋 棋六〈開成高〉
	立体構成	寺井 夜〈南高〉
	基礎構成	土岐 禎次〈北高〉

分科会一覧

種別	司会者	発表者	記録者
幼稚園	小山田 武〈根室・標津中〉 芝木 マサ〈札幌・中ノ島幼〉 荒木 愛子〈札幌・児童画研〉	芝木 捷子〈札幌・中ノ島幼〉	伊藤 澄子〈札幌・中央幼〉 金内 信子〈札幌・中の島幼〉 梶原 慈子〈札幌・中の島幼〉
小1年	野崎 信雄〈登別小〉 後藤 庸也〈札幌・円山小〉	高畑 睦子〈札幌・真駒内曙小〉 伊藤 恵〈札幌・羊丘小〉	菅原 豊子〈札幌・曙小〉 村谷 利一〈札幌・豊園小〉 山崎 清一〈札幌・上白石小〉
小2年	鈴木 利彦〈函館・弥生小〉 種市誠次郎〈札幌・発寒小〉 秋田 武蔵〈札幌・発寒西小〉	遠藤 久男〈札幌・美香保小〉 手代木 淳〈函館・付属小〉 船着 昭弘〈苫小牧・東小〉 原 良三〈名寄・名寄小〉	伊勢谷 弘志〈札幌・苗穂小〉 中山 正雄〈札幌・南小〉 花田 正雄〈札幌・藤の沢小〉
小3年	A 荒木 健一〈小樽・花園小〉 長野 昭一〈札幌・北園小〉 一戸 信雄〈赤平・赤間小〉 笹原 亮一〈札幌・東札幌小〉	側瀬宇太郎〈札幌・平岸小〉 藤井 正一〈石狩・当別小〉 大沢真理子〈根室・標津小〉	白井 園毅〈札幌・大通小〉 三浦 哲一〈札幌・南小〉 坂本 昌三〈札幌・和光小〉
	B 笠原 金一〈夕張・楓小〉 鷲尾 徹一〈札幌・東札幌小〉	成田 一男〈札幌・豊平小〉 橋場 昌三〈留萌・留萌小〉	町田 博正〈札幌・曙小〉 蛸子 信也〈札幌・中の島小〉
	C 清野 満敏〈渡島・大中山小〉 諏訪 英雄〈室蘭・知利別小〉	森川 昭夫〈札幌・付属小〉 三枝 祐富〈釧路・寿小〉	栃内 信子〈札幌・山の手小〉 吉田 俊夫〈札幌・発寒小〉
小4年	A 池本 良三〈苫小牧・東小〉 西 弘治〈釧路・城山小〉	金井 秀男〈札幌・中央小〉	堀 池田 忠夫〈札幌・羊丘小〉 修一〈札幌・八軒小〉
	B 菅原 隆治〈北見・佐呂間幌岩小〉 佐々木 忠一〈羽幌・旭ヶ丘小〉	松島 輝男〈札幌・幌西小〉	小川 晃平〈札幌・豊平小〉 北倉 武一〈札幌・北園小〉
	C 高橋 元春〈帯広・稲田小〉 辻 悦平〈札幌・登川小〉	佐藤 圭一〈札幌・東札幌小〉	出間 すすず〈札幌・豊園小〉 山本金次郎〈札幌・発寒西小〉
小5年	A 久我 宏〈稚内・中央小〉 片岡 和悟〈札幌・北小〉	佐々木理温〈札幌・藻岩小〉 成瀬 登一〈帯広・柏小〉	日高 晴美〈札幌・東札幌小〉 清水 健一〈札幌・鉄北小〉
	B 神田 耕治〈下川・一の橋小〉 藤原 明一〈赤平・赤平小〉	伊藤 英世〈札幌・付属小〉 宮川 国夫〈夕張・達幌小〉	国分 照子〈札幌・東札幌小〉 豊口 永一〈札幌・北郷小〉
小6年	A 上野 義之〈日高・平取小〉 岡田 義己〈札幌・月寒東小〉	佐藤吉五郎〈札幌・幌南小〉	高橋 一美〈札幌・白楊小〉 阿部 保夫〈札幌・発寒小〉
	B 岩間 昇一〈旭川・永山東小〉 井内 利道〈札幌・創成小〉	坂口 清一〈札幌・平岸小〉	花田 晃陳〈札幌・澄川小〉 若狭 忠平〈札幌・発寒小〉
中学	絵画 斎藤 洪人〈札幌・幌東中〉 高野 政志〈函館・船見中〉 加地 保良〈十勝・本別中〉 大谷 勝美〈上川・美瑛置杵牛中〉	小松 吉隆〈名寄・東中〉 佐久間 幸子〈室蘭・成徳中〉 森 健一〈札幌・中島中〉 鈴木 吾郎〈石狩・恵庭中〉	角力山 旭一〈札幌・日章中〉 高村 悦子〈札幌・真駒内中〉
	彫塑 中谷 有逸〈岩見沢・光陵中〉 田村 幸夫〈深川・一己中〉 佐久間 昭夫〈夕張・継立中〉 酒井 盛行〈石狩・浜益中〉 新谷 純鋪〈札幌・発寒中〉	小室 吏一〈十勝・上士幌中〉 三谷 哲司〈札幌・付属中〉 萩原 常良〈旭川・常盤中〉	斎藤 征夫〈札幌・中島中〉 田中三美枝〈札幌・石山中〉
	デザイン 横田 勇吉〈紋別・汐見中〉 尾川 和彦〈後志・倶知安中〉 斎木 果一〈札幌・伏見中〉	坂田 武夫〈札幌・八条中〉 宮川 美樹〈岩見沢・東光中〉 松岡 義和〈網走・小清水中〉 阿部 将一〈釧路・緑陵中〉	香取 正人〈札幌・平岸中〉 坪野 秀子〈札幌・北陽中〉
高校	田村 宏一〈岩見沢・岩見沢女子高〉 笠原 康正〈留萌・留萌高〉 渡辺 宏一〈小樽・工業高〉 木下 勘二〈夕張・南高〉	中村 矢一〈札幌・月寒高〉 高橋 棋六〈札幌・開成高〉 寺井 夜一〈札幌・南高〉 土岐 禎次〈札幌・北高〉	笠原 康正〈留萌・留萌高〉 渡辺 宏一〈小樽・工業高〉

■フレッシュマン部会 司会 泉 秀雄〈旭川・朝日小〉 中川大三〈札幌・羊丘小〉 木村晴一〈北見・東陵中〉
長谷川伝一〈札幌・本郷小〉 加藤 彬一〈渡島・根法華小〉 越田一喜一〈函館・金堀小〉

海の絵をかく (私と子どもの対話)

指導者 芝木捷子
園児 札幌なかのしま幼稚園 (年少 35名)

1. わたしの子どもたち

わたしの子どもたちは 4才児で、入園当初は5名くらいの子どもが いっも泣いていましたが、その子どもたちも 2週間位で泣かなくなり、ほっとすると同時に子どもたちの緊張感も和らぎ、そろそろ勝手な行動を始め 私を困らせるようになりました。

このようなにぎやかな中で わたしと子どもの対話が始まりました。子どもが、もじもじしている態度をくみとることから、言葉でかわす対話、表現されたもので知る対話、その方法はいろいろですが、今ではどんな小さなことでも 話してくれるので、この子どもたちと遊ぶのがとても楽しくなってきました。

2. この仕事のなかみ

夏休み中の一日なので 家庭内で遊んだ楽しい話がたくさん出てくると思います。その中で夏にしかできない水遊び、海での遊びが中心になってくるようです。

今までの対話と同じように 子ども自身の経験を大切に、一日を楽しく暮したいと思っています。

(用意しておくもの)
画用紙・鉛筆・マジック・クレヨン絵の具
絵筆とびん・布

3. 本時の流れ

流れ	教師の働きかけ	園児の予想される活動
導入	1. 夏休み中 何をして遊んだか 話し合う。 2. 海って なんなんでしょうね。 このことを 経験を通して話し合う。	1. 水あそび、砂あそび、ボールあそび、なみとびあそび、など。 2. つめたいよ、青いよ、ざあざあっていうよ、おっかないよ、しょっぱいよ、魚がいるよ。
表現	3. 海を身体で表現してみる。 そこで どんな 遊びをしたか考える。 4. 海の絵をかいてみよう。	3. 大きく動いたり、友だちと手をつないだり、どんな遊びをしたか、動作を試みる。 4. 大きな波、小さな波など、力いっぱい表現する。
まとめ	5. かかれた海について話し合う。	5. どの海があばれているか。 どの海がしずかであるか。

王様になつたら

指導 佐藤綾子
園児 札幌市立手稲中央幼稚園 (一年保育) 40名

1 わたしの子どもたちは

- ・四月に入園した 五才児 男20名 女20名です。
- ・たいへん すなおな 明るい子どもたちで、おおらかです。
- ・この子たちを 絵画製作を とおしては 積極性と自信と くふうし 想像する心と 根気よくやりとげる情意とを そだて、つちかっけていきたいと思っています。

2 この仕事のなかみは

- ・ 今までの経験
 - どんな形ができるかな。
 - どんなふうにかざろうかな。
(しんばいしないで。)
- ・ こんどの仕事
 - どんな物をつかおうかな。
 - どんな形・色の組合せができるかな。
(がんばって)
- ・ これからの計画
 - どんなふうになろうかな。
 - みんなと相談しながら作ろう。
(もっと もっとくふうして。)

なりたい王様
お伽の王様
森の王様
海の王様
やさしい王様

つくりたいもの
かんむり
上 衣
く び
かざり

導入	展開	まとめ
1 前時のことを思い出す ・おはなし ・うた ・みぶり 2 材料・用具を見せあう ・どんな王様になるの 3 きょうの仕事をほっきりさせる。 ・着たり、持ったり	→ ・材料しらべ ◦ どこに かざりをつけようか。 ◦ どんなふうにかざりをつけようか。 ・つくる ◦ かざりをくふうして作る。 ◦ くっつけかたをくふうして作る。 ◦ 身につけるくふうをして作る。 ◦ なおすところができたらくふうする。 ◦ こわれたところができたら、 ◦ つごうのわるいところができたら、 ◦ つかってあそぼう。	→ ・みんなの作ったものを、みんなで見よう。 ◦ きれいにかざられたか ◦ どんなところが ◦ じょうずにできたか ◦ むずかしかったか。 ◦ くふうされたか。 ・作ったもの、使ったものの あとしまつ。

心がけておきたいことから

- いろいろな材料をあつめておく。
 - ・紙類 布 毛糸 ひも 紙袋
 - 彩色用具 はさみ 穴あけ
 - ・身につける材料……ピン ゴム
 - ・はりつける材料……のり セロテープ ホッチキス のり下紙
 - 手ふき 雑布
- 助言の予想
 - ・まとまりをもったまよう。
 - ・ながくつながるまよう。
 - ・ひろがっていくまよう。
 - ・材料のえらび方。
 - ・はり方、構成。
- 次時への発展
 - ・はり合せにくいもの。
 - ・危険な操作。
 - ・劇あそび。

ふしぎな木

指導 高畑 睦子
児童 真駒内曙小学校・32名

1 題材のもつ意義

幼児期よりふだん見なれているために、ともすれば無視されがちであり概念化されやすい草木に対し再認識させることは、団地内の生活がほとんどの学級の子どもにはたいせつなことであると思われる。樹木に語りかけることによって想像そのものが物語性に迫り、こどもの想の拡大をはかることは豊かな詩情を育てるしごととして意義のあるものと思われる。低学年にある自然認識のパターンをとらえ、こどもの個性の伸長に資する面からも有効であると考えられる。

2 題材のめあて

1. お話からイメージを形象化させることによって空想や夢の幅を拓げさせ心の成長をはかる。
2. 色彩の概念化をさせ、自由に彩色させる。

5 本時の展開

指導のめあて	教師の意図	教師のはたらきかけ	予想されるこどもの活動
お話をきき「ふしぎな木」と「インディアンの子ども」との関係を考えさせる。	構成内容の確認。 物・人物 主題把握 イメージの拡大 定着	ふしぎな木の話をかきかせる。 どんな木だっただろう。 からだであらわしてみよう。	そのあとどうなるのかな。 むくむくと木の枝がまがってのびる。
自分の好きな色で下描きをさせる。	定着場面の確定 用具に対するくふう。 細く長いストローク。	話の中でどんなところが好きだったかな。 好きな色でかきたいものからかいていこう。	のぼったところ、ふりおとされたところ。
描きたいものがよくあらわれるように彩色をくふうさせる。	造形要素の確認 絵の中心の意識化 大きい小さいぬり残り空間の有効性	「むくむく」という感じがかけただろうか。 インディアンのこどもの大きさはどうだろう。 たいせつなもの、なければならぬものだけぬるんだよ。	まがった線がかいてみたよ。 すこし大きすぎたかな。 空もかいていい。 家もかいていい。
自分の作品について話させる。	鑑賞・評価	どんなところをかいたのかな。	

3 指導の計画

ふしぎな木をテーマに

第1次 大きな木小さな木……………(1時間)
木と草のちがいを体験的に想起させ大きな木小さな木という要素をとらえさせる。

第2次 ふしぎな木……………(2時間)
ふしぎな木をテーマにしたお話をきき物語の発展をとらえさせる。 本時

関連

- 6月 おはなしのえ
イメージを創造し、それを自由に表現させる
- 7月 学校へいく道
画面を構成する力をつける。

4 本時の力点

- お話の中ででてくる「むくむく」ということばの意味を大切にさせたい。
- 話の続きへ想が発展するように、こどもの自由な想像を大切にす。
- 個別指導に力を入れ、感動をよびおこすようにし、発見・構想などはげしながら追求させる。

かみのいえ

指導 伊藤 恵
児童 羊丘小学校・40名

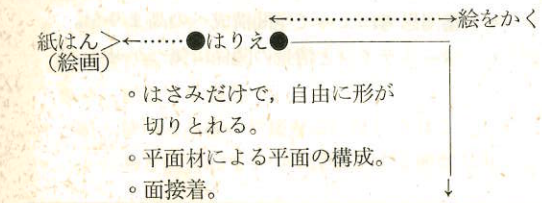
1 題材のもつ意義

直方体と子どもとの出会いは空箱にはじまる。空箱の工作は、すでに立体であるものを用いるので、<立たせる><かこむ>といった、平面材から立体への組み立てに関することは含まれていない。接着の面でも、最も安定した面接着の連続で、自然発生的な技法で十分であった。

<かみのいえ>は、そのあとをうけて、直方体そのものを、平面材で組み立てることの学習である。

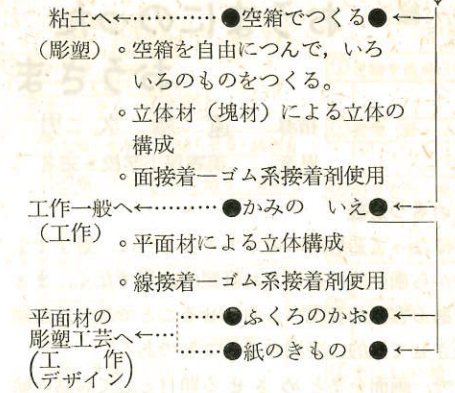
そこでは、指導する面と、くふうさせる面が比較的はっきりしていて、<自然発生的>な技法だけではすまされなくなっている。

この学習の前後の関係は、つぎのようである。(必ずしも直接的でないつながりも含む)



5 本時の展開

流れ	発問や作業の要点	備考
用意する	・<かみのいえ>と板書の後、ひとりひとりの用意をみて不足があれば補充、元気のない子は、はげます。	準備<児童>ゴム系接着剤、クレヨン、はさみ、下敷新聞紙など、<教師>B4画用紙、はさみ、カッター、展示用前面机。
壁だけの家をつくる	・「そうだ、こうやればいいんだ!!ちょっとみて」示範により①紙を縦半分に折りさき、②1枚だけの短い2辺にのりをぬる。③その2辺を接着して、輪をつくる。④輪をつぶして、2本の折り目をつける。⑤さらに広げて、別方向でもう1度つぶし、もう2本の折り目をつけて広げる。⑥壁だけの家がでかあがる。	①できた子の確認②遅い子や感違いの子の指導のため示範と机間指導を交互にする。
たりないところのくふう	・「家ができました」とよくみる。 子どもは、「やねない」「まどない」「ドアない」と意見を出す? ・「たりないところどうやればできるのかな」ともちかけ、残り半分の画用紙を使って、自由につけたさせる。	話し合いながら、子ども達の考えをひき出し、声を出さなにも内心でわかっりたい。わかった子から、作業をはじめ。はじめ一斉つぎ机間指導。
くふうをみせあう	・できた子は、前の机の上に提出させ、どこをくふうしたか、いわせてみる。 ・じぶんのくふうを、みんなに知らせる。	一斉指導、遅れた子は、作業のままきく。



2 題材のめあて

- 直方体のつくり方について、初歩的な経験をさせる
- 画用紙を自由に切ったりつけたりして、目的にあった作りかたのくふうをさせる。

3 指導計画

- 接着の練習<ゴム系による>
- 紙輪つくり→家のかべ
- 子どものくふう

4 本時の力点

- 教える面→壁つくりと接着のし方をおしえる。
- 子どものくふうの面→どのように考えさせるか。

<小2・絵> おうまにのった おうさま

指導 遠藤久男
児童 美香保小学校・38名

1. 題材のもつ意義

2年になって造形的に要求できるものは、遊びや生活の中から衝動的に造形した直観的表現でなく、まとまりのある客観的表現へと向わせることであり、主題を意識させて知的に表現させることである。

そこで、画面をまとめさせる題材としてお話の絵は、造形的要因を総合的にとらえさせる意味において格好のものである。従ってここではその本格的な物語り絵の指導のための第1段階として、物語りの同一場面を設定して集団思考をさせながら、主題追求の意識的な学習を高め、豊かな想像を期待するものとして考えたのである。

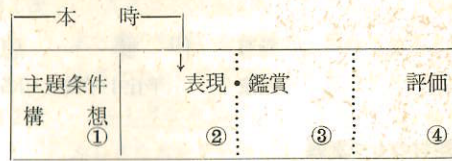
2. 題材のめあて

主題条件を課題して、現実から離れた想像の世界の中で低学年なりに画面構成をさせる場合、主人公を強調するもの説明的情景描写と二とおり考えられる。その中で説明的情景を物語りふうにとらえさせ、独創的な表現力をのばすことにめあてをおく。

5. 本時の展開

	学習の流れ	指導の留意点	児童の活動
導 入	主題条件の設定	主題を感動的にし、表現意欲を喚起する。 集中性を高めて主題を意識化する。	主題条件を知る。 興味・関心をもって発想し主題に向う。
	主題条件の分析	感動の質を深化し、イメージを鮮明にする。 条件の具体的整備。	条件を確かめる話し合い。 主題に向って想をねる。
展 開	空間構成	集団思考で空間構成に高まりをもたせる。 ベースライン等構成の要因について具体化する。	描く情景をはっきり決める。 主人公の位置・お供のようす・夕やけ空と小鳥等々。
	表現	彩色への計画性(下絵のもつ意味)。 個別指導の徹底(子どもの発想を尊重)。 興味の持続・発想への激励・条件の確認・描材。	描材を決めて、彩色を考えながら描く。
整 理	発表	表現の多様性を理解させ、独創性を高める。	話し合いで、作品を確かめ、不足のものを加える。
	彩色	感覚的な表現、混色(純色と白)・重色のしかた。	いろいろの表現のあることに気づく 色のねり方・水の量に注意する。 自分の作品を見直して、これからのことを考える。
	作品の紹介	主題追求の態度を高める。	

3. 指導の計画——4時間扱い



・関連既習題材	・発展する題材
描 おうまにのろう	版 どうぶつ
描 雨ふりえんそく	描 山のむこうのこと
(林の中を歩きました)	デ みにつけるかざり
工 かんむり	工 おめん

4. 本時の力点

同一の場面設定によって思考の焦点化を図り、お話の絵の第一歩として、暗示をもとに子どもの想像を考えながら

- ・ 主題条件を感動的にとらえさせるために、どのように話し合うべきなのか。
- ・ 集中性を高めて主題の意識化を図る。
- ・ 集団思考によって空間構成への高まりを。
- ・ ベースラインと情景の関係に気づかせる。

<小2・テ> 水ぞくかん

指導 長津喜代
児童 創成小学校・37名

1. 題材のもつ意義

・ 1年生の精神解放を主とした段階から、少しずつ基本的な知識をとり入れてきた2年生。しかしまだまだ空想力、想像力がたくましい2年生に、中学年に進む前の位置として、知性よりも感性を尊重し、自信のある創造力を養っていきたいと思う。

・ 行ったこともない海中を空想し、限りなく創造していける題材としては、この地域の子としては貴重な経験となると思う。

・ 友だちと協力して学級づくりをはじめた2年生は、グループの友人の影響は大きいけれども、力を合わせるには手頃な人数だと思う。

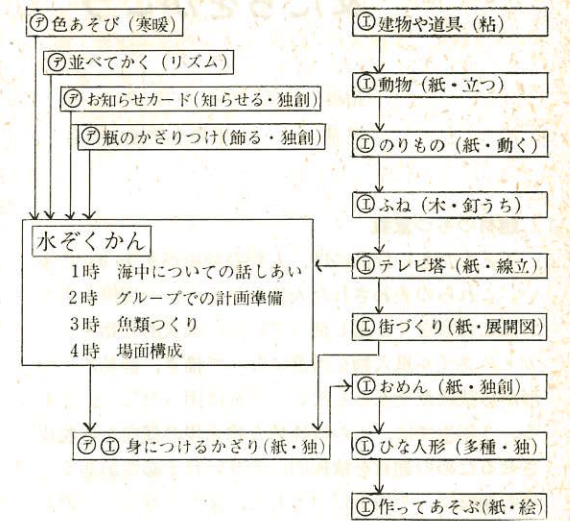
2. 題材のめあて

- ・ 色や形が美しく、おもしろい魚類や海藻類を画用紙や包装紙で作らせ、海底のイメージを楽しく表現させ、創造力を養う。
- ・ 紙と鉄のとり扱いや接着法になれさせる。
- ・ 友だちと協力して1つの仕事をする態度を養う。

5. 本時の展開

段階	指導のねらい	学習活動	指導の要点
展 開	・ 美しい配色とはどんなものか想起させる。	1. 美しい魚について話しあう。	・ 配色(明暗 寒暖 同じ仲間)
	・ 本時の主題を把握させる。	2. 海の中のようすについて話し合う。	・ 海底にあるもの(豊かな発想)
	・ 具体的な計画をたてさせる。	3. グループで構成の相談をする。 何を どこに おくか	・ みんなで話し合っって考えを言い合う。自分のしたいものもきめる。
	・ 独創的な作業をさせる。	4. 手分けして製作 とりつけをする。	・ 積極的な作業。 ・ とりつけ方 配置のくふう。
整 理	・ 創造のはげまし。	5. 作品を見合っって話し合う。 ・ グループで反省。 ・ 美しい海の中の説明。 ・ 作った感想を話す。	・ 良い点を発表させる。 ・ 自信をもって話させる。 ・ 良さをみとめあわせる。

3. 指導の計画



4. 本時の力点

- ・ いろいろな配色のくふうをさせたり、紙の特徴を生かして作らせる。
- ・ 個性のある表現をさせる。
- ・ みんなと力を合わせて楽しく作業をする。
- ・ 技法(鉄、接着剤、つるし方)

<小3・描> 友だちをかこう

指導 ガワセ・ウタロー
児童 平岸小学校・44名

1. 題材のもつ意義

子どもたちの作品には、人物の登場がぎわめて多い。これらの表わされた人物を見ると、一度描き方をおぼえた形をくり返し使っていて、図式的人物・マンガ・スタイル風人物を得意になって描き、容易にその形から抜けだそうとしない。これは困ったことである。3年生では、この惰性的人物表現の傾向から脱皮させるための題材を積極的にとり入れる必要がある。この題材は、その手だてとして、ふだん身近に学習しあっている友達と向いあい、「本当に見ること」をわからせ（意識化）「描き表わす」ことを能力として定着させていこうと考える。

2. 題材の目あて

・身近な友達のポーズを見つめさせ、友達を形づくっている線を見つけたでしていくことで、見る意味をつかませ、見ながらさがしとった線をす早く画面におきかえていくことで表わすことを、作業をとおしてわから

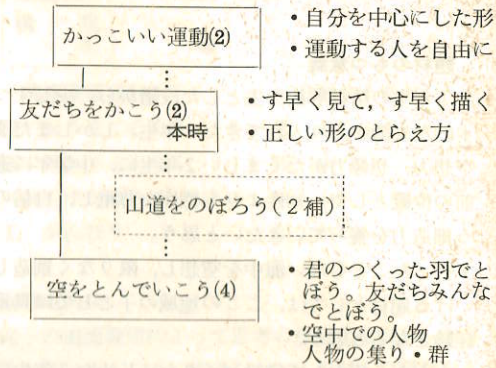
5. 本時の展開

	学 習 活 動	児 童 の 活 動	留 意 点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> 目あての確認 教科書 P8 <ul style="list-style-type: none"> よい線の発見 よい混色の発見 	<ul style="list-style-type: none"> 友達のポーズを線描きして、絵の具で描く学習の流れをつかむ。 教科書で、表わし方のちがいが「線・色」発見する。 <ul style="list-style-type: none"> よい線——一本描き 	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品も活用する。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> 友達を描く一線描き <ul style="list-style-type: none"> 1, 2, 3, ポーズ 制限時間内でのスピードのある学習活動 助言と個別指導 色をつくって描く <ul style="list-style-type: none"> 3色 + 黒 <ol style="list-style-type: none"> 混色の変化を工夫する 筆のタッチを工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> 描きとり方を知る <ul style="list-style-type: none"> す早く見て——見ながらさがす す早く描く——たしかな、はっきりした線 目+手+頭の 作業を知る スピードを知る 時間と作業の進め方をつかむ 色のつくり方 <ul style="list-style-type: none"> パレットで、ねる・見る 筆の扱い方を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆・白ボール 時間の意識 用具の扱い方
整 理	<ul style="list-style-type: none"> 学習のあとをたどって自己評価 わかったことの整理 予 告 	<ul style="list-style-type: none"> 努力・工夫のあとがわかる 	<ul style="list-style-type: none"> 筆記のまとめ方

せていく。

・ややつり合いのとれたポーズに描き進めることで、低学年での幼なさから抜けださせ、確かな表現へ向かわせていきたい。

3. 指導の計画 描——8時間



4. 本時の力点

教える、わからせることを主軸とします。

- 「見かた」知ったふりしないで、見ながらさがす、
- 「表わしかた」紙の広さと形の大きさ、よい線できくこと。—時間内で描ききること—
- 制限された色の混色の工夫
- 能力が高まるとは、今までと違ったくふう・努力をすることを作業をとおして知る。
(今までの力 + 予想) × 努力

<小3・テ> ぼくのわたしの つくったお話

指導 嶋山 恵子
児童 幌西小学校・40名

1. 題材のもつ意義

- 3年生は、観察に興味を持ち、精密な描写への準備の時にロマンスの時代ともいわれている。この時に、ゆめのあるデザインの仕事は、もっとも楽しく進められる学習であると思う。
- 対称やくりかえしがわかった後に、自分でつくったお話を、表現することは、遊び+意味(知らせる)の学習として意義あるものと思う。

2. 題材のめあて

- 自分のつくったお話を、起承転結を考えながら、簡単なすじにまとめ、楽しく表現すること。
- お話にあった美しい配色を考えながら、アニメーションの楽しさを味わう。

6. 本時の展開

教 師 の 活 動	児 童 の 活 動	留 意 点
<ul style="list-style-type: none"> どんなお話をつくるのか、確認させる。 アイデアをふくらませるための話しあいをさせる。 どんな手順で仕事をするか話しあわせる。 はさみ、のりの使い方、しあげのし方をたしかめながら仕事を進めさせる。 作品鑑賞をさせる。 次の学習について話しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> どうしたら動きのある表現ができるかを話しあう。 色の選択→フリーカットティング→配置→構成→のりづけ→アクセントをつける等の手順を話しあう。 作品をもとにしてお話しをする。 色の選択、構成はよかったか。 アニメーションの楽しさ等について話しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> 2こまくらいの例で考えさせてみる。 構成のときに気づかせたいこと。 場面が4つあること。 やまがあるか。 開いた時の楽しさなど。

(3)はさみの使い方、のりの使い方を、たしかにする。

3. 指導の計画

- ※1学期中に行ったデザインの系列で、主なものだけ並べました。
- 30羽の鳥をとばそう。
(構成の学習)
 - 天気カードをつくろう。
(寒色・暖色の学習)
 - 木と小鳥を切りぬいてみよう。
(対称の学習)
 - トランプをつくろう。
(リズム・その他の学習)
 - ぼくのわたしのつくったお話 本時
(知らせるデザイン)

4. 本時の力点

- つづき絵のおもしろさが表現できたか。
- 色の選択、構成は、よかったか。
- 用具をじゃうずに使えたか。

<小3・彫> 何かしている動物

指導 成田 一 男
児童 豊平小学校・33名

1. 題材のもつ意義

この学級の児童の粘土で作りたい動物についての欲求を見ると、かわいいとかおっかないなどといった情感としていえようとする児童が約半数で、犬とか象とか答えて、情感を表わそうとする意識が、潜在しているかもしれないが、はっきりきっていない児童が約半数いる。その内容については、じょうずに作りたい、ようすがよく表われるように作りたい、またじょうぶに作りたいといった意識が強い。

動物園で観察した動物のことを話し合うことによって自分の作りたい何かしている動物を発想させ、情景場面として、情感的にとらえて生き生きと表現する喜

5. 本時の展開

段 階	児童の意識	学習活動	学習対象
動 発 機 活 動 想	1. 観察した動物のどんなかっこうがおもしろかったか話し合う。		
	2. 自分の作りたい動物が何をしているところを作ったらよいか考え発表する。	作ろうとする動物のイメージ・何のどんな・予想される形態	
追 制 求 活 動 作	3. 自分の作ろうとするものと考え粘土のかたまりからひねり出してイメージをさがす。	粘土のかたまりの中にさがし出した動物のイメージ。	
	4. 粘土のかたまりから何かしている動物の特徴がよく表わされるようになくふうして作る。	形や動きの特徴	

びを得させることが、この学習の課題になる。

2. 題材のめあて

すぎな動物の、何かしている形の動きを単的にとらえて、動きのある生き生きした動物のようすを表現する。

3. 指導の計画

- 友だちいろいろ (基) …… 1時間
- 動物いろいろ (基) …… 1時間
- 何かしている動物 (独) …… 1時間 本時

4. 本時の力点

- (1) 自分の作りたい何かしている動物の、動きのある形をイメージするようになる。
- (2) 生き生きした動物の、立体的なかたまりの動きを確かめながら表現するようになる。
- (3) 自分の表わしたい何かしている動物の動きのおもしろさに気づき想をふくらませるようになる。
- (4) 自分のくふうしたことや、新しい技法として発見したことを振り返り、そのよさに気づくようになる。

追 制 求 活 動 作	5. できつつある粘土のかたまりをまわりから見て確かめながら作る。	ようすがよくでて 形や動きの特徴 いるだろうか。
	6. たおれないようにくふうしながら作る。	技法のくふう 立たせ方 安定させ方 堅牢にする方法
自 鑑 覚 活 動 賞	7. ようすがもっとははっきり表われるようになくふうする。	場面情景としてとらえた中での形態
	8. できた作品を見せ合って思ったこと感じたことを話し合う。	作品の意図・内容 できた作品を見せ くふうされた技法 合う。

<小3・工> さかをかちかちおりの動物

指導 森川 昭 夫
児童 附属札幌小・35名

1. なぜこの題材を選んだのか。

3年生は実に活動的である。行動することに喜びいろいろなものに意欲をもってぶつかっていきこうとする。そこでそれにこたえる動きがあって、おもしろく遊べる題材が用意されなければならない。

低学年の遊び中心から、合理的な造形能力をつちかう移行期として、この「動くもの」は、左右にゆれ動く慣性で、斜面を降りていく。簡単なしかけでありながら、子ども達の夢を広げようと考えた。創造する場を設定しそして、基礎的なものに対する正しい取り扱いから出発して、なぜ動くかよりも、この動きをいかに自分たちが生かして、より創意くふうを広げていくかに重点をおいた。この柔軟性が、次への飛躍となってたくましい造形表現になると考えたからである。

5. 本時のながれ

学 習 要 項	教師のはたらきかけ(発問助言)	予想される子どもの活動	指導上の留意点(教師のおさえ)
前時導入	前時の課題を確かめる。	黒板に出て来て、自由に楽しくかく、それは何かを、あてて拍手する。	鳥、虫、動物などのヒントを与える。人まねをしない。
主題感動を高める	半円形を黒板に数多く示し、頭としっぽをつけて動物が出来ないか考えさせる。	机上に出して、胴と足をわける。	あらかじめ図にかいておく。(まだ組み立ててはいない)
内容と形態	前時まで作ったものを確認する。	床にひっかかる。右と左のバランスがない、重すぎる。	失敗例を用意して、その原因を考えるようにしたい。
構想イメージの变革	頭やしっぽが、動くのに邪魔になることがある。	理由を言いながら、発見する。	赤チョーク用意。
再 発 見	黒板にかいたものは、よいだろうか。	頭と尾を楽しく作る。バランスに注意。	色画用紙を準備する。
表 現	好きな動物を半円形をもとに、考えさせる。	自由に作ったものを歩かせ、調整する。	ベニヤ板を用意して坂を作る。足の開きの大小にある。
着想効果の確かめ	初めて坂で歩かせる。早い遅いの動きの違いに気づかせる。		
追 求	完成まで激励する。動かない子に助言。	どこがだめか、ゆっくり考えさせる。	足の長さは正確か、ゆるい穴。
修正・完成	グループ毎に競争をさせる。		
鑑 賞	色のきれいなもの、形のおもしろいものを選ばせる。	それぞれ、好きな作品をあげて友だちの努力をたたえる。	早くしたい子、遅くしたい子がいるかもしれない。
発 展	アイデアの広さをわからせる。	木で作った先輩の作品を見る。	子どもの想像の夢を広くさせる。

2. 題材のねらい

用具の使い方をよく理解させ、動くもののしかけに興味をもたせながら、楽しく遊ぶ経験をさせたい。

- 自然の形→枠づけされた形→抽象形
- 材料・機構の制限(白ボール・ゆれ動く慣性)
- 技術の系列一円のかき方、切り方、接着の仕方、確かさを求める仕事。
- 確実に動かし、楽しく遊び、成功感を味わう。

3. 指導の計画(組織化) 3/4時間

既習の学習「高いとう作り」→接着、立体表現
「動物を見てかく」→対象の特徴

作図の仕方 (コンパス・定規) 基礎造形
用具の使い方(きり・はさみ・接着) 創造性開発
半円形のデザイン……………自由な心の解放
組み立てて遊ぶ……………次への発展
更に何かに利用出来ないか……………

4. 本時で子どもに期待するもの。

今まで作ったものの組み合わせで動くか、動かない原因を究明・解決すること。そして、その条件の中で、最大限に、自分の色と形で外的表現をさせたい。

<準備> 白ボール、はさみ、竹ひご、接着剤、色画用紙、色紙、四つ目ぎり、定規、コンパス、ベニヤ板。

<小4・描> ちいさなおうち

(アメリカ童話)

指導 金井秀男

児童 中央小学校・42名

どうして、この題材をえらんだか

物語画のねうちは、子どもたちが物語によってつくられるイメージを、造形的な感動にまでたかめて、絵にすることによって、子どもの想像力を自由にはたかせ、個性的な表現へのよろこびと自信をあたえるところにあります。

この物語は、現代アメリカ絵本の代表作のひとつであり、女流作家の手によるものである。人間の生活の中に自然が、どんなに大切かを、美しい詩にみちた文章で語

展開<4時間>

段階	学習の推移と内容	つかうもの	学習ポイント
導入	1. 「ちいさなおうち」の話をよんできかせる。 ◦お話の場面をかく予告をする。	プリント (お話を かいた)	◦先生の読みに感動し、造形的なイメージがつかめたか。
発表	◦短い話であるから、本を読んできかせるだけでなく、「きのうときょうとは、いつでもすこしづつちがっていました。」というように、情感と感動をこめてよむ。 ◦必要に応じて、小さな家、大きな都会をくらべさせながら、物語の中味をはっきりさせる。	写真・絵	◦註解を要するものが、どの程度必要か。
(20')	2. 各自、描きたい場面をきめ、用紙の裏面にかきこむ。色画用紙を選ばせる。 ◦数名に発表させる。まだ、はっきりしないところは、どんなところを見てきて、自分のイメージとつなげるかをはっきりさせる。	色画用紙	◦イメージが決ったか。
(30')	3. 構想計画をたてる。 ◦情景は紙面を見つめて想像させる。ラフスケッチを通して形、色を決定させる。 ◦場面は現実の生活で表現してよいわけで、いろんなスケッチから、えらびだすようにさせる。		◦創造性はどうか。
制作	4. 色画用紙に線かきする<色鉛筆などを使用させる。> 5. 彩色する。 ◦水えのぐのうすぬり、厚ぬり、ほかしなど、どう変化をつけるか考えて、必要な部分から着色していく。 ◦情景的なフニキがでてくるように、あらゆる部分の色に心を用いさせる。 ◦描きおわりを予告し、緊張感を持続しているうちに全員中止させ、一度遠くへかざって、全体のつりあいをみる。	•鉛筆 •色鉛筆 •墨汁 •水えのぐ一式 •布	◦情景表現がしつかりできるか。 ◦表現の緊張感が持続しているか。
(60')			
鑑賞	6. 鑑賞する。<できた作品を展示し鑑賞させる。> 物語のフニキと独創的くふうをほめて認めるようにする。	クリップ	◦作品のよさが味わえるか。
(10')			

られている。

この美しい物語を通して、失なわれていく自然に対してのヒューマンな願いを学び得、それを色や形で一層はっきりと定着しうることで、適切な題材だと考える。

とくに、空想を空想としてとらえる時期から、現実味を加えて考える時期の子どもに与えるものとして、知的・情的な側面から、十分満足できるものとする。

めあて

1. お話の中味に感動し、造形的なイメージがもてる。
2. 情景を自分の考えでくふうし、構成するよろこび
3. 主題に応じて、描画材料や手法がえられる。
4. それぞれ特色あるお話の絵を見て、そのよさがわかり、見るよろこびを味わうようにする。

※本時の展開は、制作60分の場面である。

<小4・版> 学校のこと

指導 松島輝男

児童 幌西小学校・40名

1. 題材のもつ意義

A 学校生活の中でも特に主体的に共同の仕事を進めていることや、新しい形で進められている学習や活動に対する喜びや希望を表現することは、時期的に見ても4年生の表現活動として意義深いものとする。

B これまでに進めてきた、観察を中心にした学習を生かし、さらに「たしかな線」での表現を生かすためにも版画(ドライポイント)での表現の喜びや楽しさを味わわせたい。

題材の面から 領域の面から

- | | |
|-------------|----------|
| ○よく見てかく・つくる | ○ゆびえあそび |
| •春の木 | ○手型あそび |
| •友だち線 | ○こすりだし |
| ク 色で | ○うつしあそび |
| ク 粘土で | ○紙版画 |
| ※ク 版画で | ※ドライポイント |
| •家・ホスター・写生会 | ○木板画 |

2. 題材のめあて

A 友だちが集って活動している場面をモデルをおいて写生したり、これまでのスケッチをもとにして画面を

5. 本時の展開

教師の活動	児童の活動	留意点
•学習内容をたしかめながら学習の確立を図る。 問題の焦点化や摘出解決への手順を確かめる。	•ためし刷りの手順についてたしかめる。 •ためし刷りが終わってどこをなおしたらよいか考える。 二つのグループに分かれて仕事を進める。	•準備を念入りに。 •Aの話し合いは刷りのよしあしか、版のよしあしを考えさせたい。
•用具の扱い、技法上の問題点についての助言をする。	Aグループ (ためし刷り) 1 インクづめ 2 ふきとり 3 刷りとり 4 話し合い 5 版の修正仕上げ	•Bは黒白の対比について気づかせたい。 修正のはがしすぎに注意する。
•典型的な作品をえらんで、学習の一般化を図る。	Bグループ (版の修正・仕上げ) 1 話し合い 2 ニードル・ナイフなどでの彫りやはがし 3 本刷り	•プレスの圧力、インクづめ、ふきとりなどの不備に気を配る。 •作品の処理
•学習の整理をする。	————— 話し合い ————— •それぞれの段階の作品をもとにして、話し合う。 •引きつづき、それぞれのグループの仕事を進める。	•整理・後仕末をする。

組み立てることができる。

B ドライポイントの版形式になれば、その特性に気づきながら、くふうして楽しく表現することができる。

C 用具(ナイフ・ニードル・たんぼ・プレス機など)技法(版の処理・インクづめ・ふきとり・刷りとりなど)になれて仕事を進めることができる。

3. 指導の計画

- | | |
|-------------------------------------|-------------|
| A 構想を立てる
• 場面を考え組み立てる | } 2時間 |
| B 下絵をかく | |
| C 版を彫る
• カッター・ニードルで彫る | |
| D ためし刷り
• インクづめ・ふきとりをして刷る | } 2時間
本時 |
| E 作品を見て版をたしかめる
• 修正したり・彫ったり版の仕上げ | |
| F 本刷り | |

4. 本時の力点

1. これまでの観察の学習や線の学習がドライポイントの中で生かされているかどうか。
2. 刷りの仕事を手順よく進められるかどうか。
版の処理・インクなどの扱い・プレスの扱いなど。
3. 学習を進める上で、計画性や協力性などがみられるか。

<小4・描> わたしたちの くらしから

指導 佐藤 圭
児童 東札幌小学校・40名

- 生活のドラマの中から造形表現のシンタックスを
 - 主題の〈つかみ方〉〈あらわし方〉を基本的に構造化することから
 - 主題のつかみ方、として対象をドラマ的に捉える
 - それを視覚的空間把握からドラマ的心理的空間把握におきかえてあらわす……この2つの柱より、更に造形的表現のシンタックス（構文法）としての形式や技術をくぐらせるという手だてによる題材構造を図ったものである。
- 造形的表現の独自性から
 - 造形的表現における形象と、その関係をどのように捉え、どのように教えるか……という立場から、
 - 主題を表現するための心理的ドラマ空間の構成
 - 主題感情にかかわる登場人物の姿態の意図的表現をねらいとして「表現につながる生活を選んでかかせる」ことにした。したがって
 - 題材の素因として発想題材であり、内容の系統からは知識・感覚・思考・技術の系統から設けている

分野	題材の与え方	児童の活動視点	題材の素因	題材内容の系統
生活構想画	<ul style="list-style-type: none"> 題材のねらいをはっきりさせて、予習課題として与える。 生活をとおして、自分とまわりとの関係の中で（地域とのかかわり）主題をドラマとして捉えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> スナップ写真のような環境の中の部分的な場面ではなく、場面の中に環境をふくめてあらわす。 身近な生活のドラマとして自分をその中に含めてあらわす。 必要なものの観察とスケッチをして。 	<ul style="list-style-type: none"> 発想（なにを） 表現技法（どのようなあらわすか） 	<ul style="list-style-type: none"> 造形知識 造形感覚 造形思考 造形技術の系統から

指導の系統			学習内容の系統表	能力体系表
教える	気づかせる（思考・試み）	育てる（能力）		
<ul style="list-style-type: none"> 自分を含めて現わすことの主題とのかかわりの意味。 対象のドラマ的な捉え方。 主題を動的に変化のある形象であらわす。 形象とそのまわりの関係を引き立つ色であらわす。 	<ul style="list-style-type: none"> 主題の中心となるものと、まわりの情景との関係をどうあらわすか。 それとのかかわりから登場する人物の姿態をどうあらわすか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活をドラマであらわす。 空間を語り出す。 主題に即して登場人物の姿態をあらわす。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現につながる生活を運んでかかせる。 意図的具体的表現に向う。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象を自分の考えで選ぶ。 関係づけてみる。 工夫されたフォルム

- 指導の計画 絵画題材の系列から
 - おたまじゃくしをすくっているわたし ①時間 ←
バケツで水を運ぶ友だち (観察) スケッチ
単的にポーズの特徴をつかむ
 - ふしぎな時計と人たち ②時間 ←
時間をなおす小人たちの姿態を
 - 丘の道 ②時間 ←
曲りくねった丘の道で ②時間 ←
ドラマ空間をあらわす
- わたしたちのくらしから ③時間 ←
 - イ. 予習課題として与える 題材のねらい
 - ロ. 主題の確認と決定 個々に 放課後
 - ハ. 構想と構成 想定と決定 表現製作 1/3時
 - ニ. 構想と構成 前時の続き 表現本時 2/3時
 - ホ. 着彩 完成 表現 3/3時
残り放課後
- ごんぎつね（お話の絵） 2学期 ④時間 ←
お話のすじを変化のある豊かな空間で語り出す
- 本時の力点
 - 〈なに〉を〈どのように〉あらわすかということから
 - 画面の中心になるものと、それを支えるまわりのものとの関係について
 - 主題感情と登場人物の姿態の関係について
その つかみ方 と あらわし方

<小5・テ> 夢の家族写真

指導 佐々木 理 温
児童 藻岩小学校・38名

- 題材のもつ意義

3月までの前任校元町の自主教育課程4年教材を、違う環境の新しい子どもに、取り組ませてみたいと考えた。5年とはいえ、造形思考の面で出発点に近い位置に立つこの子どもに多くの経験を与え、その中にある造形のきびしさの一面を知ってもらえたらという願いをもっている。この題材がもつ色彩の中での語らい、鋭敏なカッターの切れ味からの現代的な造形感、5年においても充分に通じる内容であることとらえたわけである。

系列的には、絵画的心象面をもった基礎デザインといったものであろうと思われる。この種のものについてはテーマ「特徴のある人」の中で個の学習として経験済みであるが、今回は集まり（かたまり）の学習をねらいとし、デザインばかりでなく今後の絵画活動への足がかりにしたいと考えている。
- 題材のめあて

「夢の」ということばを付加することで、元町の題材
- 本時の展開

段階	指導の目あて	教師の意図	教師のはたらきかけ	予想される子どもの活動	準備
動機活動	意識焦点化 作文「夢の家族」を手がかりに全体の構図を考えさせる。	構成内容の確認 ・人数 ・性格 表現の個性化 ・台紙決定への見通し	夢と家族の性格と色がうまく結びついたろうか。 夢と台紙の色との関係はどうなるだろう。	カメラを持たせた。 宇宙服を着せてみた。 つけたしたいなあ。 夢はもう家族にもられているから家族と台紙の色があえばよい。	作文 色研ワーク カッター 画板 接着剤 その他
追求活動	具体的表現 主題をあらわすために配色をくふうさせる。 「かたまり」から「かさなり」へを意識させる。	構図のくふう ・色の調和 ・台紙のおき方 かさなりの意味 誠意のあるりづけ	どんな色があうというのだろう。 人数が多くて入らないときはどうしよう。 どんなかさねかたがあるだろう。	目立つ色と目立たない色。反対の色。 純色と中間色 かさねてはるとよい。 小さい人物は前にしなないと見えなくなる。 どの人物からはろう。	
自覚活動	系統化 次時につながる見通し的な話し合いをさせる。	鑑賞	どの家族が「動く家族」としてよいだろう。	夢がお話になれるもの。 動きがはっきりなもの。	

とは多少ニュアンスが変わったものになるだろうと思われる。「こんな家庭にしたい」「こんな家族だったら楽しいだらうな」いつも持っているであろう子どもの家庭への不満や期待や夢を引き出し、自分の家族への映像をはっきりさせると同時に、家族への愛情を伴った装飾美化本能を刺戟してやりたいと考える。

さらに、具体的な造形活動からは、色のもつ意味を人物の性格と結びつけることによって色彩の機能性について気づかせ、写真に見られる形のかさなり重面のおもしろさを、はり絵表現によってつかませたいと思う。

- 指導の計画

「家族」をテーマとする構築

(1)夢の家族写真……………3時間
家族への夢の語らいとカッティング…(2時間)
・色数制限の中から色紙選択
・カッターの扱い方
全体の構想をおさえながら貼付け…(1時間)本時

(2)動く家族(かけ絵)……………6時間
- 本時の力点
 - 線描……………シャープな流線を感じ覚的に把握させる。
 - 色彩……………対比(補色を含めた)関係に気づかせる。
 - 技術……………のりづけを手ぎわよくさせる。
 - 形体……………形のかさなりを意識させる。

<小5・彫> 友 だ ち

指導 伊 藤 英 世
児童 附属小学校・30名

1. 題材のもつ意義

子ども達の粘土の経験は、描画のそれよりもはるかに少ない。故に立体感覚、立体的表現力は貧弱なものとなっている。しかし、5年生は、彫塑的に表現しようとする意欲が強くなっていく時期である。

人間の頭部は立体表現の際の基本的となる要素の顕著なものである。第1に顔の後に顔の面積の倍ほどの後頭部が続いているということである。子ども達が横から後から観察しし表現することによって、頭部を立体として把握し、彫塑的に表現するのである。

第2に、頭部、首、胸などのつながりの関係から、常にうごきを持っているものである。この題材では、意欲的に外形的なうごきをつけ、〇〇している友達を表現させようとするものであるが、5年生としての欲求を満足させるものである。

また、うごきを大づかみにとらえ、大きな粘土の塊と子ども達がぶつかり合うことは、触覚・その他の運動感覚など、いわば諸感覚統合の教育ともいえる意義ある教材である。

5. 本時の展開

学習の流れ	教師のはたらきかけ	子どものはたらき
本時学習の目標の確認	1.本時は、うごきを確かめる学習であることを知らせる。	1.目標を知る。 ・うごきを確かめる学習なのだ。
構想イメージの変革	2.自分の構想を別な角度から検討させる。 ・スケッチ、モデルをもとにして。	2.別な構想を考えてみる。 ・このまま進めてよいのだろうか。・スケッチ、モデルではこうなのだが。・友達の意見も聞く。
再発見	3.別な手だてを考えさせる。 ・今迄の手だても考えた上で。	3.自分のイメージを強める手だてを考える。 ・今迄の手だてのほかにないだろうか。
表現	4.制作させる。 ・何をしている作品かがわかるように。	・角度、向きなどに注意するといいいのだ。
着想の効果確かめ	5.自分の考えた手だてでやってみてどうだったか。 ・うごきの表現はどうか。	4.考えた手だてで制作する。 5.作品について考えてみる。 ・考えどおりに表現できない。 ・うごきがとてもよく出ている。
追求	6.もう一度制作させる。 ・イメージに、より接近するように。	6.再び制作する。 ・もう少しだ。・頑張ろう。
修正、完成	7.作品をまとめます。 ・細部などにも手を入れるように。	7.全体のつり合いを考えながら作品をまとめる。
鑑賞 発展	8.自分や友達の作品について話し合いをさせる。	8.作者の意図を考え話し合う。

<小6・工> 小さいペットの家

指導 佐 藤 吉五郎
児童 幌南小学校・45名

1. 題材のもつ意義

子どもの造形活動は小手先の技術や強制によるパターンの中での営みではなく、彼等の全員が、体全体で心の底まで動かされた題材による必然の手の働きとしての営みを目あてにしていることを知っていないながら、急いで一つの水準に子どもをひっぱっていくために、子ども達の心を忘れ勝ちになり 1つの枠に入れることにより成果のみ見ていると反省しています。したがって素朴ではあるが、感動を第一とし、その技術は消極的に見ても、子どもの体感をともなう経験を与えることを主軸に計画したのです。そして工作の領域を選びこの領域が素材の機能を最高に理解し、生活に生かすことを主目的だとすれば、私の子ども達が今、最高学年として全校的な立場で判断し、行動し、具体的に何をし、それがどう生かされるかということに最も関心を高めている生活と合致するのです。一連の素材による経験学習をとりあげ、その一応の総合された力としてこの題材を与えたのです。生産する人間の値打ちを身につけ、生活を創り出す個性の強い人間像を期待して、彼等のとり組む過程を大切にしたいのです。この一連の題材を通して今の子どもの中に別の子を育

てたい。

2. 題材の目あて

- ・感動をもった手と素材をどう苦心して結びつけるか思考の過程を大切に経験をつませたい。
- ・機能にあわせたデザインや技術経験をくふうにより友達とコミュニケーションする機会を与えたい。
- ・計画したことを実践し計画と実践の順次性を理解させたい。

3. 指導の計画 (4時間題材)

紙と厚紙の素材のちがいを「私の手さげ」。「紙と竹と木」でうちわを造り素材の特性という経験をもとにして夏休みに使うもの「私のペットの家」は総合された力の独創性を機能をともなって準備したのです。

- 1次……生きものを入れる機能を中心に話し合い経験から創る計画を立てる——基本の型を示唆——
- 2次……アイデアスケッチをし設計図による材料集めや構成の計画準備をする
- 3次……計画によって製作する 本時
- 4次……塗装をして仕上げアイデアと苦心の反省をする——再構成もさせる——

4. 本時の力点

全力で作りそれを生活に役立てる喜びを経験させ、個性の発芽を意識させたい。子どもが誰もこの中に入るペットの夢をみながら、全身が手に集中した熱が気力になって現われているか。心と技のかかわり合いを見たい。その道具立てをするのが本時の指導の力点。

5. 本時の展開

本時(34)の目あて ◎イメージを最後まで貫き、集中した努力が、どう手と道具を結合したか。思考する態度を養う。 ◎興味と意欲の中から独創性を導き出す。		
(教 師)	(児 童)	(留 意 点)
(導入) 材料の特性と技法…曲げる、つなぐ、切る、耐強性等はどうか。 接着の技法……さす、包む、囲むのアイデア 機能性に目をむける…止まるもの、はうもの飛びまわるもの。	・僕の材料はどうかと机上のものを再確認する。 ・自分のアイデアと材料との結びつきを確認する。 ・トンボが入りやすい、くわがたが入りやすい等の夢の交換風景。	・無計画な材料の集め方をさける。 ・出来るだけ具体的ににぎやかに。
(展開) 個別指導……土台を最初に 個性の表現の伸長…入れる生き物を忘れない 対話、完成予想……技術的に困ってないか。	・土台は何でつくる。 ・入口はどうするか。 ・思った通りいかないぞ、考えよう。	・まわりに気をとられずリラックスさせる。 ・友達とコミュニケーションさせる。
(まとめ)制作の成果……友達の話からヒントを得(途中)……再構成する。 完成までの予想を…考えを発表し合う。 明らかにする	・自分の作品の途中経過を発表し友達に意見を聞く。 ・途中で発見した技法やアイデア変更を発表する。	・経験の交流をはかる。 ・夢を最後まで貫くように。

＜小6・描＞ 楽器をもつ友だち

指導 坂口 清一
児童 平岸小学校・45名

1. 題材のもつ意義

子どものかく人物画を見れば、その子どもの描画能力は、ほぼ理解される。絵本や漫画の影響を受けた絵が多く見られるが、この段階から脱皮させなければ、われわれがえがく創造的人間像は生まれない。

この題材は、空間・自然認識をさせるためのものであり、シリーズの終局ではなく、独創力開発へと発展連続させるためのものである。

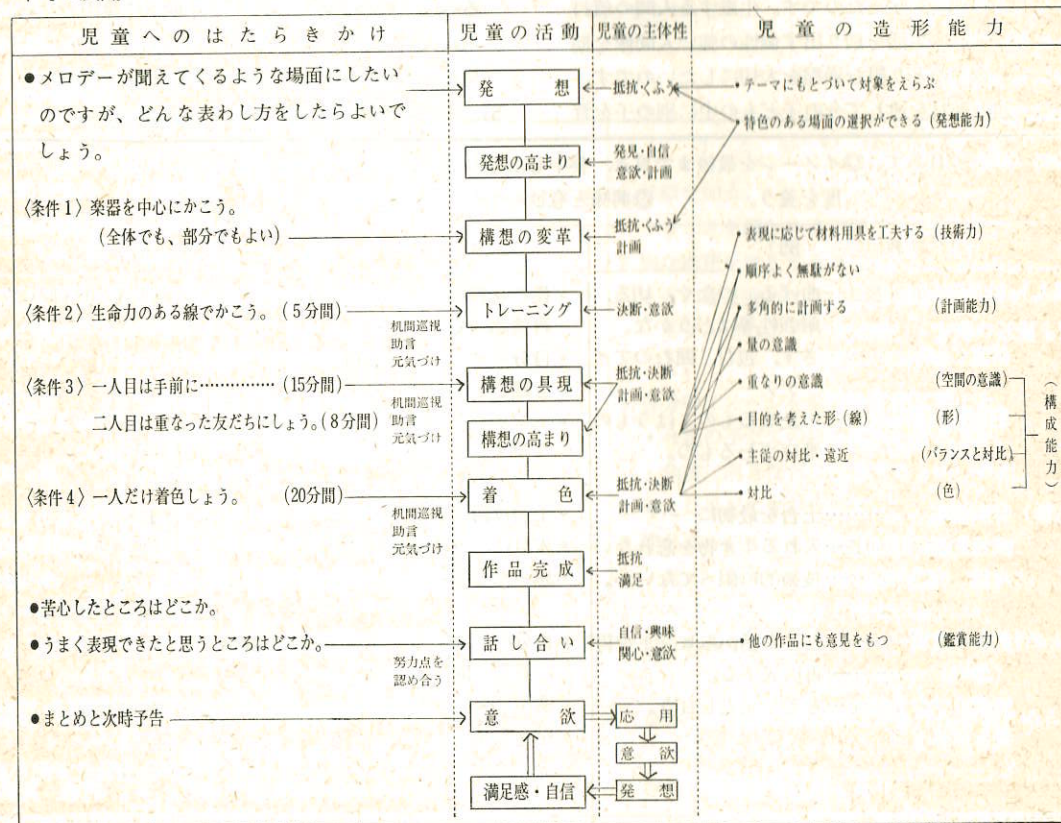
2. 題材のめあて

60分という時間内に一段落をつけるために、題材の視点ははっきりさせ、少ない学習内容をもつことにした。

①友だちを観察し、からだの動き、つりあい、楽器の特徴などを個性的にとらえて表現し、描写能力を高める。

・生命力のある線で、曲線や直線の美しさを表わす

5. 本時の展開



3. 指導の計画

題材	領域	時間	構成	視	点	学	習	内	容	学習のねらい
			解放	基礎	空間	独創	線描	空間	色彩	技術
①音楽を聞いて	描	2	○				○	○		打楽器の演奏を線や色で表現
②いろいろな楽器	描	1		○			○			楽器の美しさを線で表現
③私の好きな楽器	デ	2			○			○		楽器の美しさを色紙で表現
④楽器と友だち	版	2		○				○		ステンシルによる表現
⑤知らせるデザイン	デ	2				○	○	○		標識やポスターをつくる
⑥楽器をもつ友だち	描	1		○				○		生命力のある線で表現
⑦器楽演奏	描	3				○		○		演奏者と環境を自由に構成
⑧独奏する友だち	彫	2			○			○		動作の一場面の特徴を粘土で表現

4. 本時の力点

これでいいんだといいきれる個性的でユニークな児童像をねらう。

- ①精一杯観察し、生命力のある明快な線にかく。
- ②個性的にとらえた表現能力を高める。
- ③個性的な作品の見方をのぼす。

＜中1・描＞ 花の表現 (写生)

指導 奥野 郁男
生徒 向陵中学校・44名

1. 題材のもつ意義

1年生もこの時期をむかえると、中学校生活にもなれ美術への関心や意欲が高まってくる。しかし、生徒の実態としては身近な事実や経験に対する観察力、記憶力の正確さに欠ける。したがって連想力、結合力も弱いものであり、構成、構想が単純で表現内容も平凡である。なお各学年のこの領域の題材関連はつぎのようにおさえている。

1年 対象を色彩の美しさとしくみとしてとらえ新鮮な美しさを身近なものから発見して表現する。

2年 対象を「季節感のあらわれ」として分析的にとらえ感動を明確に表現する。

3年 対象を「主観的・客観的」にさまざまな立場からとらえ意図的に新しい表現をする。

2. 題材のねらい

(1) 既成概念によるものの見方の不備なところに気づ

5. 本時の展開 花の色について

	指導のねらい	学習活動	留意点
導入	1. 花からうけた感じを思い起こして述べさせる。 ・色の階調を中心に ・まわりの比較によっての花の特徴を中心に。	○花からうけた感じについて思い起こす。 ○その花について発表する。 ・どこで ・どんな大きさか ・どんな色か ・どのような感じをもったか	・具体的に花の色を明確にさせる。 ・えのぐの量と水の量について考えさせる。
展開	2. 画用紙に花の色を着色させる。 ・思いきった表現について 3. モデルを提示し観察させる。 ・色の階調について ・バックとの関係について 4. 思い起こして描いた花とモデルとのちがいについて話し合いをさせる。 ・色の新鮮さ ・形のちがい ・筆あとの効果	○想像の花を画面いっぱい着色する。 ・あざやかさ ・みずみずしさ ・生命感 ・透明感 ○観察をおして色のちがいがどこにあるかをさがす。 ・観察のしかたをくふうして ・筆あとのおもしろさをさがす	・筆の使いかた、混色について注意させる。 ・花と他のものと比較をさせながら、色のちがいをつかませる。
整理	5. 教科書の作品を鑑賞させる。 ・作者の心 ・表現のための構成のしかた	○作品の花の美しさはどこにあるかを考える。	・各自が自信をもって制作にあたるように適切な指示をする。

かせて、身近なものにも新鮮な美しさのあることを発見させる。

(2) 対象を、主として色彩をとおして観察し、表現するなかで次のことをつかませる。

- ・あざやかさ
- ・みずみずしさ
- ・透明感
- ・生命感

(3) いろいろな花や花の絵を鑑賞を通して、その美しさや表現の違いを感得させ、表現意欲を高める。

3. 指導の計画 (4時間)

(1) の色のよみとり …… 1時間 本時

・色彩や材質感の表現をする。

(2) 花の形のよみとり …… 1時間

・対象の組み合わせや見る角度による表現をする。

(3) 花の写生 …… 2時間

・対象から受ける印象を素直に表現する。

(4) 反省・鑑賞 …… 1時間

・身のまわりにある「美しさ」の発見や表現をする。

(事前に色の三要素による「配色練習」・「働く人」を学習している。)

4. 本時の力点

本時のねらいは 生徒が想像で描いた花の色とモデルを実際にみての色の違いに気づき、花の美しさが他の色との調和のもとで、なりたっていることを理解させたい。また、比較鑑賞させることによって、新鮮な感動をわかって創作意欲を高めたい。

<中1・描(構)> 物語の表現

(単色木版)

指導 武田 郁代
生徒 信濃中学校・44名

1. 題材のもつ意義

- (1) 国語科で学習済みの題材であり、すでに物語の読解がなされ、主題も生徒はとらえていると考える。
- (2) この物語は段落が明確で、分担作業に適している。
- (3) 物語の着想が奇抜であり、生徒の造形的発想に新しい分野をひらくものと考えられる。
- (4) 物語の内容として、権力者と庶民との対比がよく表現されており、しかも造形的構造となっている。
- (5) “架空の内容、江戸風、文章表現されたもの”などを、どのように乗り越えて絵画表現するかについて重要視されてくる。従って、ひらめき、考察、資料等、追求的な活動が活発化すると考えられる。

2. 題材のめあて

- (1) 日本の絵巻物の初歩的な表現の学習をする。
- (2) 特に発想に重点をおき、主題意識、主題の追究を重視していく。
- (3) 版画(単色)であるので、適確で単純化された形が必要となり、それらの追求活動を徹底していく。
- (4) 白黒のバランス、粗密等の効果を工夫していくと

	指導のねらい(内容)	学習活動	留意点
導入	1. 題材に対するあこがれをもたせる。 2. 本時のねらいをは握し、めあてをたてさせる。 (1) 物語の印象を大切に表現。 (2) 木版画の特徴を生かした下絵の描法。 (3) 発想過程の原型理解。 3. 学習計画を予知し、めやすをつけさせる。	○木版画の鑑賞や使用材料の確認をする。 ○木版画の特徴については、水彩画と木版画の比較鑑賞を通して感得する。	○具体的な課題については漸次追加していくよう配慮する。
展開	4. 物語の朗読を聞かせる。 5. 印象をまとめ“ひらめき”を与える。 6. 話の区分をさせる。 7. 第一話により発想過程を追究させる。 (1) 表現の中心になることば“これは困ったことになったわい”の分析。 (2) 下絵の予想。 (3) 予想の深め。 (4) 一次スケッチ。 (5) 批評により、版画下絵のための洞察。 (6) 資料の検討。 8. 二次スケッチを描いて構想を定着させる。	○江戸風、奇想天外さ、ユーモア性、立場の対立等をグループごとに検討し、発表する。 ○グループ討議により(ゆとりのある困惑さ)であることを知る。 ○表現したいことの中心は何か、大きさ、位置、とらえ方について想を練る。 ○指によるから描きをする。 ○主題のとりあげ方を集団討議する。(大きさ、位置、白黒バランス、単純化) ○黒と白の絵具により、上記のこと等をふまえて、個人で追究する。	○録音テープを使用。 ○話の区分は独立した話となっている三つの区分にとどめる。
整理	9. 次時課題をは握させる。 10. あとしまつ。	○物語の各区分の印象をまとめてくる。 ○次時準備用具を知る。	○白黒のバランス、単純化は資料による。 ○服装等は主な特徴をとらえる程度にする。 ○次時課題解決の手がかりとする。

ともに、表現の技能を高めていく。

- (5) 主題、制作方法、表現等について、自己主張の中で共通理解をもつような集団活動を助長していく。

3. 指導の計画

8時間………4週
毎週5～6分 人物クロッキー

(いろいろな表情表現等を含む)

- | | |
|------------------|---------|
| (1) 発想過程の原形理解 | } ……2時間 |
| (2) 制作計画と仕事の分担 | |
| (3) 下絵描きと版へののりづけ | } 2時間 |
| (4) 彫りの工夫とためし彫り | |
| (5) 彫り、ためしずり、修正 | ……2時間 |
| (6) 本ずり、編集、鑑賞 | ……2時間 |

今後の発展

関連する本題材内容	関連題材
・印象を強く表現する	人物クロッキー
・発想と画面構成	構想画
・白黒の単純化	自然の形から
・単純化・画面構成	ポスター

4. 本時の力点

- (1) 物語の主題をとらえ、主題を造形的に追求していく視点と方法を身につけさせたい。
- (2) 観念的な制作をさげ、“ひらめき”を根気強く追求していく態度を養いたい。

<中1・彫(写)> 顔のある壺

(テラコッタ)

指導 多田 紘一
生徒 北栄中学校・49名

2. 題材のめあて

- (1) 球体の変形として顔を捕えることができること。
- (2) 立体としての厚さや深さを表現できること。
- (3) 顔の全体と部分の関係を捕えることができること。

1. 題材のもつ意義

生徒の発達段階からみて、写実的にものをとらえようとする意識の高まる時期であるので、この題材を設定した。

(1) 生徒の実態から

- ・写実的にものをとらえる観察眼はまだ未熟である
- ・顔は、ふだんから身近に親しみある対象で、見慣れたものに対する認識のし直しに好都合である。
- ・立体の認識や表現の習慣に乏しい。

(2) 教師から

- ・壺という球体に近い形の中に、顔を表現させることで多角的にものをとらえ、立体を表現する意味を認識させる足がかりとすることができる。
- ・粘土は立体表現に抵抗が少なく適当な材料である

5. 本時の展開

	指導のねらい	学習活動	指導の留意点
導入	1. ふだん「顔」を概念的にとらえていることに気づかせる。	○自分の頭の中に思いおこした顔を描いてみる。	○それぞれ、自由に描かせる。
展開	2. 立体としての顔がどうなっているかをさわらせて発見させる。 3. 顔の中での全体と部分の位置関係を認識させる。	○目をつぶり自分の顔に触れ、全体の形の特徴を確かめる。 ○顔の中での細部の位置関係や、面の方向、凹凸の度合いなどをつかまえる。	○顔面と頭とを1つのかたまりとして意識させる。
展開	4. 見る角度により、形が変化することを理解させる。 5. 彫塑的かたまりを意識した顔の形を壺として描かせる。	○見る方向や角度によって、どのようにその形や面が変化していくかを観察する。 ○完成された作品を想像して、ある定められた角度から眺めた顔のようすを頭に描きスケッチしていく	○顔の左右、上下への変化によるそれぞれの面の大きさや向きの変化をみつけさせるようにしたい。 ○彫塑的素描を期待する。
整理	6. 素描を検討させ、彫塑的な量を意識させる。 7. 次時の予告	○描き上げたスケッチをみて、立体の表現がうまくいつたか考える。	○生徒が、量や面のつながりなどを意識しつづけることができたか確認する。

<中2・彫(構)> 新しい塊りの表現 (石膏じかづけ)

指導 石岡博昭
生徒 啓明中学校・45名

1. 題材のもつ意義

生徒の発達段階からみて理論的にものごとを追求しようとする時期であるのでこの題材を設定した。

(1) 生徒の実態から

- ・量としてのものをとらえようとする習慣がとぼしい
- ・抽象形態に対する認識が希薄である。
- ・ものを分析的・追求的にとらえようとする時期である。

(2) 教師から

- ・平面的形体から立体的形体に発展させようとする追求的意欲を育てたい。
- ・立体に対する見方、考え方を育てたい。
- ・彫塑のもつ量感、均衡、動勢(特に量感)を理解させたい。

5. 本時の展開

	指導のねらい	学習活動	指導の留意点
準備	・課題をあたえ平面的抽象形体を考えさせる。	・家庭での学習として抽象形体をかいてくる。 ・厚さ2センチの粘土板を作ってくる。	・自由に構想させたい。
導入	1. 資料(生徒作品、ムアーやアルプの作品等)を参考にしながら学習内容を理解させる。	・学習内容を話しあいながら彫塑のもつ量感・均衡・動勢について理解を深める。	・特に量感ということを理解させたい。
展開	2. 課題を検討させ、抽象形の美しさを理解させる。 3. 条件を与えより美しい抽象形を発見させる。 4. 材料経験を通して制作意欲をおこさせる。	・課題を検討する。 ・円をもとにして平面的抽象形の構想をねる。 ・粘土板で平面的抽象形体を制作し更に屈曲や接合をする。	・平面的抽象形体から発展させ立体的抽象形体を作らせたい。
整理	5. 作品を検討させ、立体への認識を深めさせる。 6. 次時の予告	・でき上がった抽象形体を検討し立体を発見する。 ・家庭での学習として粘土で立体を作ってみる。	・主体的に立体を認識させ、立体表現への意欲をもたせたい。

<中2・テ(立)> いれもののデザイン

指導 加藤五十和
生徒 札幌中学校・41名

1. 題材のもつ意義

生活のあらゆる面で、商品の外装や商品の宣伝として、すぐれたデザインのものがある。今やパッケージデザインの全盛時代を迎えている。

生徒にパッケージデザインの意義や価値をきいてみると日常生活のあらゆる面に利用されているため、空気と同じようにみられ、意外に関心の薄いことが知らされた。そこで生徒の日常生活と密接な関係にあるパッケージを新鮮なアイデアでデザインをさせることにより合理的な構造、視覚的な効果、宣伝性や展示効果などを学習させ、造形の思考や技術を育てたい。

2. 題材のめあて

限られた条件のなかで、使いやすさ、美しさを追求させ、立体のもつ多面的な美を見つけさせる。〈アイデ

5. 本時の展開

	指導・ねらい	学習活動	指導の留意点
導入	1. 時間のまとめ。 2. いれもののデザインのだいじなことのおさえ。	・いれもののデザインは、どんな共通性があるか確認する。	・本時の学習のめあてをつかみ準備態勢をととのえさせる。
展開	3. アイデアスケッチ(立体)によりアイデアをふくらませる。 4. アイデアスケッチ(立体)をくり返して、テーマにせまる。	・機能的で親しみのもてるいれもののデザインをする。 〈条件〉1枚の紙、のりづけの箇所が少なくすむ形を考える。 ・アイデアスケッチ(立体)のくり返し、同じテーマ、同じ材料で異った構成表現技法でくり返し、アイデアスケッチ(立体)する。	・構造に重点をおいて扱うようにさせたい。 ・ちょっとした着想でも、すばらしいアイデアにつながることを気づかせたい。
整理	5. よいアイデアについて考える。	・いろいろな傾向の作品を提示し話しあう。	・友だちのアイデアのよさを見いださせたい。

ア開発と創造の意欲

- ・機能的でしかも親しみのもてるいれもののデザイン
- ・既成のものにとらわれない新鮮なアイデア
- ・材料の可能性の追求

3. 指導の計画(6時間)

- ・事前 いれもののデザインの収集
- ・いれもののデザインのだいじなことのおさえ

〈主題の意識化〉—————1時間

- ・アイデアスケッチ(立体)

〈固定化のたしかめ〉—————1時間 本時

- ・制作

〈固定・狭義の定着〉—————3時間

- ・鑑賞・相互の話しあい

〈深化・狭義の変容〉—————1時間

4. 本時の力点

- ・アイデアスケッチ(立体)により構造する力を豊富にさせたい。

<中3・テ(平)> 童話の表現

(アニメーション)

指導 菅原稜三
生徒 平岸中学校・44名

1. 材料のもつ意義

最近のテレビと映画の普及はめざましい。特にテレビの家庭への進出はめざましいものがある。そしてそこではアニメーションが全面的に利用されているといってもよい。そこでその原理を研究させたいと考えた。映画のいろいろな技法の中でも、アニメーションは幅広い可能性をもっているのではなかろうか。テレビの普及によって非常に身近なものとなった、アニメーションを見なおすことは、新しい美術・デザイン教育にとって意義ある事だと思う。また中学生の新しい教材として充分生徒の興味と楽しさをひくものと考えられる。そして映画芸術の可能性を理解させ、創造的な表現をさせたいと思う。

2. 題材のめあて

動画の原理を理解させ、一連の動きや変化が感じられるように、何コマかの連続した画面を構成させる。テーマを与えそれにふさわしい表現方法を工夫させる。制作や鑑賞をととして、動画への関心を深める。

5. 本時の展開

	指導のねらい	学習活動	指導の留意点
導入	1. 題材についての学習計画を知らせる。 2. 諸準備の確認をさせる。 3. テレビコマーシャル、漫画映画など、生徒の日常親しんでいるものを中心として、動画を話し合い発表させる。	・諸準備の確認をする。 ・動画の原理や制作の要領について話し合う。	・4人ぐらいのグループ学習の形式をとる。 ・意欲をもった態度を身につける。
展開	4. 動画作品を鑑賞し、それをもとに興味を深めさせる。自然現象の再現でなく・単純化・誇張化・漫画化に重きをおき、それが表現材料とどのように結びつか、新鮮な発想と簡潔さを保っているかまた動きを充分構成の中に示しているかを特に見ていきたい。 5. 既成または創造した童話のストーリーを考え、場面もとらえさせる。内容の興味面白さをストーリーの中にとりいれるよう指導する。	・参考作品を鑑賞しそれらについて話し合う。 ・感想を発表する。	・制作の手順をはっきりする。 ・グループの生徒が全員話し合いに参加し、みんなが理解するよう指導する。 ・動画の条件を満たしているか。 ・10コマぐらいでおさえた
整理	6. 次時にはストーリーを具体的にスムーズにつくる事を確認する。	・本時に学習した事を話し合う。 ・後仕末をする。	い。

科学技術と芸術との総合による新しい造形の可能性を理解させる。

3. 指導の計画 (5時間)

事前にいくつかの資料をととのえておく。

- (1)題材の説明、アニメーションについて 1時間
(2)ストーリーの素案を作る 本時
(3)アイデアスケッチ、制作……………3時間
(4)発表、鑑賞……………1時間

事後はパネルで廊下に掲示し、鑑賞する。

4. 本時の力点

テレビコマーシャル、漫画映画など生徒が日常慣れ親しんでいるものを中心に動画の原理をわかりやすく説明する。

動画では単なる事象の再現ではなく、もとの形との近似性をもたせながら、外形の誇張や単純化、漫画化に主体をおいた表現にしたい。

コマ数は多くても10コマを限度とし単純な幾何形や具象形の構成にし、アイデアスケッチで構想をたしかなものにしてから制作に入るようしたい。

今回は、画用紙に制作するが、表現材料として硬質ビニール板やガラス等を用いてスライドを作り映写する方法等もある事を指導したい。

生徒の発想がスムーズに作品に具体化させたい。

<高2・テ> レンダリング

指導 土岐 禎次
生徒 札幌北高校・10名

二年生になって本校工芸科では家具を中心とした木工実習をしているが、今回はそのデザイン活動のうちのレンダリング(表示)を扱うことにした。

1. 題材のもつ意義

創造的な構造に基づき、用途、材料、製作法、美感などの立場から総合的に計画し表示する能力と製作する能力を養う事が工芸科に於ける大きな目標で、デザインと製作とを一体として指導することがたてまえである。又デザインは考案、設計から表示の段階を経てはじめて完結したデザインとなる。表示される以前のアイデアや構想だけでは、デザイン活動が完結されたとはいえない。表示(レンダリング)はデザインにおける一つの重要な活動である。

2. 題材のめあて

この小単元でのレンダリング実習は生徒各自が充分にねったアイデアを表示することにより出来上りをより客観的に検討すると同時に第三者にも自己の意図を理解できるように示すことを力点とした。

<高1・テ> 無彩色による平面構成

指導 中村 矢一
生徒 札幌月寒高校・10名

1. 題材のもつ意義

色と形・それらには自然から求めるもの人工的に求めるものが両輪になって現実の世界に実在し、個々の生活の中に視覚を通じて、又触覚を通して私達の生活をとりまわっている。これらの事柄を学習を通じて、分析的に思考し、体得し、新しい創作の基礎としたい。描画のデザインともいべきものである。

2. 題材のめあて

直接機能性に関係なく、明度段階、構成要素、分割構成の中で、正しく理解し、表現できる能力を養う。

3. 指導の計画

与えられた円の中に、コンパス、定規を使って平面分割構成し、無彩色5段階以上で配色する。次週は単色による構成、有彩色同色配色分割構成へと発展する。

4. 本時の力点

与えられた条件を満足させ、個性ある美しい構成になったか、デザインする基礎能力が理解でき、創作意欲がもたらされたか。

3. 指導の計画

学習内容	担当時間
インテリアデザイン……………5 (室内設計計画)	
人間工学とは……………1	
家具工芸……………2	
木工材料……………4	
木工具・木工機械……………4	
デザイン(アイデアスケッチ)……………4	
デザイン(レンダリング)……………4	本時
木工実習……………2	学期

4. 本時の力点

- ・アイデアスケッチを透視図にして計画されたものを客観的に表示する。
 - ・消点の位置によって不自然な形にならない様注意
 - ・描線の質、陰影のつけ方について説明。
 - ・材質感の表現法については特に力を入れた。
- 一年生での金工実習で一応レンダリングの実習をしているが上記の点でいろいろと未熟の点が多かったので技術的にも一層高いものとした。

<高1・版> ステンシルの多色ずり

指導 高橋 祺六
生徒 札幌開成高校・10名

1. 題材のもつ意義

シルクスクリーンへの発展過程として、版画多色ずりの初歩的教材として最も適している。

2. 題材のめあて

多色ずりの要領を会得させることによって版画の興味を覚えさせる。

3. 指導の計画

前時一版をつくる一型紙製作。本時 する一多色ずり。

4. 本時の力点

位置がずれないで美しく仕上げる。
配色 色の重ね、ぼかし等技法の工夫。

<高1・テ> 立体構成

指導 寺井 孜
生徒 札幌南高校・10名

省略(紀要参照)

大会役員

大会長	北海道造形教育連盟委員長	和田 芳郎
副大会長	副委員長	滝村 虎雄
	副委員長	一戸 信雄
	副委員長	今野 正治
	副委員長	小山田 武
参 与	北海道教育委員会教育課長	斎藤 実
	札幌市教育委員会教育長	高橋 喜敬
	札幌市教育研究協議会々長	本間留次郎
顧 問	教育大学函館分校	宮林 繁雄
	旭川分校	上条 雄也
	札幌分校	寺井 信一
	札幌分校	藤川 基
	札幌分校	高山三代喜
	札幌大谷短大	藤野 高常
	札幌大谷短大	戸坂 太郎
画 家	繁野 三郎	
北海教育評論社	桜井 忠	
札幌市 (前委員長)	野村 英夫	
札幌市 (前委員長)	新妻 清	
札幌市 (前委員長)	赤石 武士	
旭川市	朝倉 力雄	
亀田郡暇法華小学校	加藤 彬	

顧 問	旭川市朝日小学校	泉 秀雄
研究参与	北海道教育委員会指導主事	高橋 洋
	札幌市教育委員会指導主事	中川 清
事務局長	札幌市立平岸小学校	伊東 将夫
		側瀬宇太郎
		坂口 清一
		山田 紀
総務部 部長	札幌市立手稲中央幼稚園	砂金 隆
	東白石中学校	佐藤 哲夫
	新川 小学校	斎藤 一雄
	山鼻 小学校	橋本 富
	藻岩 小学校	高橋 栄吉
	手稲 中学校	太田 達雄
	羊丘 小学校	中川 大三
	道立 月寒高等学校	中村 矢一
庶務部 部長	札幌市立新川 小学校	斎藤 一雄
	発寒 小学校	種市誠次郎
	伏見 中学校	斎木 果一
	東札幌小学校	佐藤 圭
	幌南 小学校	佐藤吉五郎
	藻岩 小学校	佐々木理温
	北栄 中学校	香西富士夫

(記録)	札幌市立手稲中央幼稚園	伊藤 澄子
	私立中ノ島幼稚園	金内 信子
	私立中ノ島幼稚園	梶原 慈子
	札幌市立曙 小学校	菅原 豊子
	豊園 小学校	村谷 利一
	上白石小学校	山崎 清
	苗穂 小学校	伊勢谷弘志
	南 小学校	中山きく代
	藤の沢小学校	花田 正雄
	大通小学校	白井 園毅
	南 小学校	三浦 哲
	和光 小学校	坂本 昌三
	曙 小学校	町田 博正
	中の島小学校	蛭子 信也
	山の手小学校	柄内 信子
	発寒 小学校	吉田 俊夫
	羊丘 小学校	堀 忠夫
	八軒 小学校	池田 修
	豊平 小学校	小川 晃平
	北園 小学校	北倉 武
	豊園 小学校	出間すず子
	発寒西小学校	山本金次郎
	東札幌小学校	日高 晴美
	手稲鉄北小学校	清水 健
	東札幌小学校	国分 照子
	北郷 小学校	豊口 永
	白揚 小学校	高橋 一美
	発寒 小学校	阿部 保夫
	澄川 小学校	花田 晃陳
	発寒 小学校	若狭 忠平
	日章 中学校	角力山 旭
	真駒内中学校	高村 悦子
	中島 中学校	斎藤 征夫
	石山 中学校	田中三美枝
	平岸 中学校	香取 正人
	北陽 中学校	坪野 秀子
	八軒 中学校	山田 礼二
	北栄 中学校	香西富士夫
会計部 部長	札幌市立手稲中央幼稚園	砂金 隆
	東橋 小学校	笹原 亮
	美香保小学校	遠藤 久男
	道立札幌北 高等学校	土岐 禎次
	札幌市立発寒 中学校	新谷 純輔

会場部 部長	札幌市立山鼻 小学校	橋本 富
	本郷 小学校	長谷川 伝
	児童美育研究所	荒木 アイ
	私立中の島幼稚園	芝木 捷子
	札幌市立中央 小学校	金井 秀男
	平岸 小学校	山田 紀
	幌東 中学校	斎藤 洪人
	幌西 小学校	松島 輝男
	開成高等学校	高橋 祺六
	日章 中学校	森 健
研究部 部長	札幌市立藻岩 小学校	高橋 栄吉
(幼稚園)	手稲中央幼稚園	砂金 隆
(小学校)	本郷 小学校	長谷川 伝
(中学校)	幌東 中学校	斎藤 洪人
(高校)	道立月寒高等学校	中村 矢一
公報部 部長	札幌市立羊丘 小学校	中川 大三
	羊丘 小学校	伊藤 恵
	澄川 小学校	辻 悦平
	美香保中学校	吉田 広仕
	啓成高等学校	富樫 貢平
編集部 部長	札幌市立手稲 中学校	太田 達雄
	豊平 小学校	成田 一雄
	教大附属小学校	森川 昭夫
	教大附属中学校	三谷 哲司
	教大附属小学校	伊藤 英世
(運営)	札幌市立上白石 小学校	山崎 清
	豊平 小学校	成田 一男
	宮ノ森小学校	尾形 研次
	発寒西小学校	秋田 武蔵
	北 小学校	片岡 和悟
	中ノ島小学校	蛭子 信也
	札幌市立北 辰 中学校	島谷部順一
	手稲東中学校	田中 哲
	啓明 中学校	井口暉和子
	明園 中学校	久守 昭義
	白石 中学校	更科 秀夫
	中央 中学校	佐野 千尋
	柏 中学校	小川 全
	月寒 中学校	新藤 和夫
	新琴似中学校	島 界二
	幌東 中学校	長谷川忠男
	東白石中学校	杉原 誠悟
	八軒 中学校	蝦名 亮二

第十八回 全国児童作品コンクール

作品 募集中

主催 日本児童教育振興財団
協賛 小 学 省 館
後援 文 部 省
各都道府県教育委員会
琉球政府文教局

●応募資格
〈図画〉幼稚園、保育所の幼児と小・中学校の児童生徒
〈作文〉小・中学校の児童生徒

●募集種目
〈図画〉自由画、図案、版画とし、約38×54cm (B4)
以内の画用紙。版画のほかは台紙をつけない。
〈作文〉小学生は四百字詰五枚、中学生は八枚以内。
題材は自由で詩を含む。

●現在学年中の創作品で、未発表のものであること。

●募集方法
(1) 学校、学級ごとにまとめて出品のこと。
(2) 点数は一名一点ですが全体の数は制限しない。
(3) 作品は一点ごとに、文(画)題、氏名、学校名、学
年、学校所在地、指導教師名を明記する。

●受付場所 札幌市豊平四条七丁目 豊平小学校
和田芳郎宛

●締 切 九月十五日
入 選 一府県につき、各学年ごとに図画、作文それ
ぞれ十名(うち一名は特選)計百九十名に、
賞状、賞品を贈ります。特選作品は「全国コ
ンクール」に参加し、総理、文部大臣賞をは
じめ、日本児童教育財団賞が贈られる。

パンの店

銀座屋

BAKERY

GIN

さつぽろ
南一町17

ZAYA

Sapporo TEL ② 0701

祝 第19回全道造形教育研究大会

粘土は 本場地元採取品に、内地の焼物用白色最高級品

技術は 当地工業試験場の御指導と、多年の経験の成果

焼窯は 研究と独創とが生んだ操作簡易、焼上りは上乘

販路は 全道の隅々に行き亘り、更に東北各県に迄及ぶ

粘土から焼物迄の店

野幌陶芸社

江別市野幌町9番地
電話 江別 2-2737番

学校教材教具専門店
図工教材は下記へ

北海道図書教材直販協会 } 加盟店
全日本教材教具協同組合 }

有限会社 高川平和堂

札幌市北15条西4丁目 TEL 代表72-1266

躍進する教育産業の学研

◆日本PTA全国協議会推せん

- 系列化された月刊誌
- 対象別の各科百科事典
- 学習参考書・書籍群
- 完備した教材・教具
- 教育映画・スライド
- 学研文具・玩具
- 教育機器・事務機

学校と家庭を結ぶ 学研の学習と科学

- 学年別総合学習誌
- 学年別科学学習誌
- 1～6年の学習
- 1～6年の科学
- 中1～3の学習
- 中1、2の科学
- 中学1～3年コース

■学研北海道支社 札幌市南25西8 TEL 札幌52-1233
■学研釧路支社 釧路市中島町2の7 TEL 釧路23-7437

第9回国体バスケット設備の光栄を担った学友社

体育器具と体育設備

バスケットゴール・スタンド
平均台各種・ブランコ・まり台

有限会社 学友社

代表取締役 坂原 義弘

札幌市南一条西六丁目仲通 電話 (22)6243・(24)7843番
工場 札幌市北十九条東一丁目 電話 (71)9554番



画をかきながら学校設備を充実しましょう

教育設備助成運動参加商品



世界の信頼

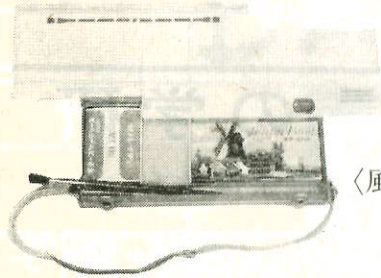
ギター 描画材

ギターパス
ギターくれよん
ギターペイント

マジックインキ

Magic *ラッシュヨシ* Pen

特殊製法による水性インキ!
雨に流れない
水に消えない
水性ペンの決定版!



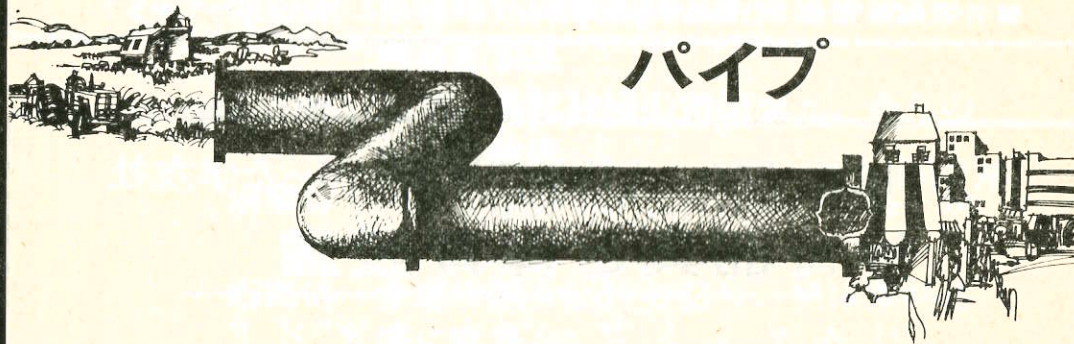
〈風車12色〉



ゴールド ￥300
シルバー ￥50
鉛筆型 ￥30
8色セット ￥250
10色セット ￥300

ギターえのぐ マジックインキ 本舗 寺西化学工業株式会社

農村と都市を結ぶ



パイプ

ホクレン
ホクレン農業協同組合連合会

農村と都市を結ぶパイプ
になろう。これがホクレン
の信条です。四十三年度の
取扱いは、ついに三千億
円を突破しました。

しかし、ホクレンがこの
パイプの役目を果たして
います。農業生産に必要な資
材や生活用品を農村に届け
る一方、農村から都市へ、あ
らゆる農畜産物を送ってい
るのです。

農村と都市の間に、大き
な輸送パイプを敷いて、と
りたての農畜産物をサー
ッと運ぶ。そんな時代が
いつかは来ることでしょ
うが、いまのところは無理な
相談です。

開館 1 周年記念 サマーウエディング特別プラン

(7月1日より8月31日までに挙式される方)

- 婚礼衣裳オール3割引
- 商品券1万円プレゼント

ホテルアカシヤ TEL 52-5211

センスと品格ある 洋画額縁・土産品

狸小路の

野田でございます

TEL ②③-2203 狸小路2丁目 野田額縁店

〈時計台文化会館〉 旧・北建ビル 新築工事中につき
半年間 **地下へもぐります**



当ビル(地上5階・地下1階)完成予定の本年11月まで同場
所の地下仮店舗にて営業中!!
東京以北唯一の《画材・デザイン材料・額縁》専門店とし
て新装オープンします。ご期待ください

松山額縁店地下仮店舗の充実度をあなたの目でお確かめください

- 画材・デザイン材料・額縁は松山額縁店でお求めください

創業45年・株式会社

松山額縁店

本社・工場 サッポロ南8西1 ☎(51)2884
店舗・卸部 サッポロ北1西3 ☎(25)2679・9000

SM式～陶器窯及造形器械製造発売元
らく焼・陶器・七宝焼・彫金・彫塑・版画材料

札幌市役所
札幌市教育委員会 指定店
北海道教育大学

北陶社

……北陶社工芸教室を御利用下さい……

本社 札幌市南13西7 T (52) 4766・4769

工場 札幌市川北2340 T (86) 7187

さくら



さくらマット水彩

さくら50年の歴史は美術教育の歴史です!!

大正14年世界で始めてクレパスを開発，財団法人教育美術振興会の設立，戦後さくらマット水彩を開発し常に美術教育の振興に貢献してまいりました。

今時の水彩画の普及に伴いさくらマット水彩は圧倒的な人気を拍しております。伝統と技術が超微粒子の顔料を生み出し，ここに初めて，透明にも不透明にも使用できる水彩絵具の決定版を創りだしたからです。

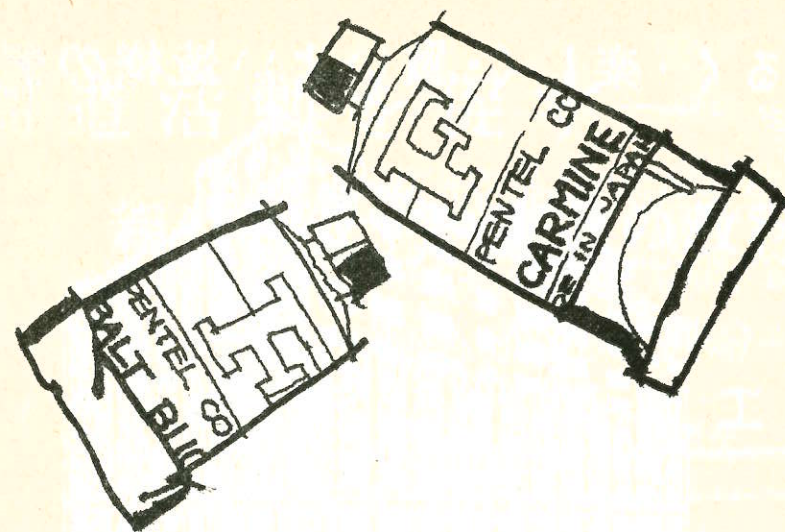
新発売!!



クレパス本舗 株式会社桜商会

文部省教材基準該当品

クレヨン・クレパス・版画絵具・粉絵具・サインペン・カラーインキ・ペンタッチ
ポスターマーカー・ペンボンド



ペンてるえのぐ F12



ペンてる 本舗 大日本文具株式会社

札幌支店 札幌市北1西18
TEL 62-7151

万能型強力接着剤

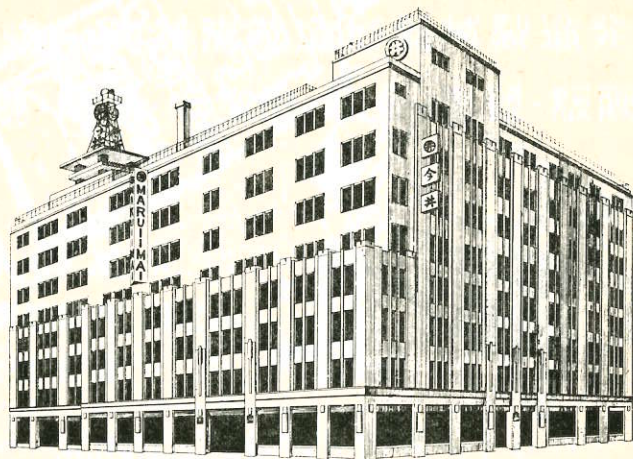
セメダイン ジュタクト

造形工作に無限のアイデアを贈る



セメダイン (株) 札幌出張所
サッポロ北2西2 TEL (24) 4453

明るく・楽しく・買いよい皆様のデパート



札幌
井 今井
電話代表25・1151

祝 第19回全道造形教育研究大会

学協利用で
豊かで平和な暮らし

北海道学校生活協同組合

TEL 56 0434 56 6493

◆創造活動を促す—

親しみやすい東書の教科書

■ 小学校 新訂 新しい図画工作

■ 中学校 新訂 新しい美術

- ・ 精選された新鮮な作例
- ・ 明確な学習のねらい
- ・ 導入のくふう
- ・ わかりやすい文章
- ・ 美しい印刷

東京書籍株式会社

Tosyo

本社 東京都千代田区神田和泉町1番地 (862) 4111
支社 札幌市南1西3(札石ビル) (24) 8987
出張所 函館市時任町35の22 (51) 1811

全道美術協会

第11回学生美術全道展

- 会期 8月下旬の予定
- 会場 札幌市サンデパート6階(南3条西3丁目)

事務局 札幌市北33条東5丁目砂田友治方 全道美術協会

第23回 こども道展作品募集

主催
北海道美術協会

- ◆会期・会場…昭和45年1月下旬 札幌(井)デパート
- ◆作品…小学校児童の絵画、点数自由、装幀不要
 - 大きさ画用紙B判四切、うらに画題、校名、学年、氏名明記
 - 学年別出品点数とその合計をかいた出品表を添えること
- ◆審査…道展会員により入選・準入選・授賞作品を決定する
- ◆搬入締切…昭和44年12月31日まで事務所必着のこと
- ◆事務所…札幌市豊平4条7丁目 豊平小学校 和田芳郎宛 TEL 81-9588
- ◆入選作品貸出について
昭和43年度・昭和42年度作品1週間 1,500円(約150点返送料地元もち) 随時貸出しをしております。和田事務局へお申し込み下さい。

第14回 新道展 油 水彩 版 絵 彩 画 作品公募

搬入—9月17日
会期—9月20日～25日
会場—札幌市民会館
出品料—1人 1,500円(大きさ、点数制限なし)

新北海道美術会 事務所 札幌市狸小路6丁目義江画廊方 TEL 241868

全国造形教育連盟推薦

文学堂研修画筆

他にまねのできない描きあじ最高!

子どもが喜ぶ 足毛筆



現代に生きる筆 隅取

……一度必ずためしてください……

研修筆 北海道代理店
研修画筆

札幌 富貴堂	苫小牧 相馬紙店	北見 北見商事
〃 大丸藤井	〃 西沢商店	帯広 有田紙文具
〃 中央紙文具	滝川 中川文潮堂	〃 本間紙店
小樽 谷藤商会	旭川 文学堂旭川営業所	〃 朝日堂書店
函館 大昭KK	〃 KK旭屋	釧路 須貝紙店
室蘭 三宅紙店	〃 (株)ヤマハン	〃 山一商事

本社 広島県安芸郡熊野町

文学堂製筆株式会社

道 展

● 第10回記念北海道高校美術展

搬入 8月23日(土)
会期 8月26日～30日
会場 札幌市民会館

● 第44回道展

搬入 11月14日(金)

● 第23回こども道展

締切 12月31日
事務所 札幌市立豊平小学校和田芳郎

PRINTING

■ 印刷の事なら何でも!!

.....新鋭機械と経営合理化により迅速低廉.....

- 学校関係専門
- 校友会誌
- 機関紙
- 新聞
- その他

株式会社 **本間印刷**

札幌市南1条東5丁目
TEL ②1355 ②67754